生活・総合

第３４号

令　和　５　年　度

埼　玉　県　連　合　教　育　研　究　会

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

まえがき

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会
会 長　竹 森　努

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会は、平成２年度の発足以来、会員の皆様の熱意ある取組の継続、また教育行政関係の皆様の多大な御理解・御協力をいただいて、充実した活動を積み重ねてまいりました。ここ数年間のコロナ禍を経て、「主体的・対話的で深い学び」に向け、生活科・総合的な学習の時間が再度見直されてきています。本年度は、集合型授業研究会とオンライン会議を合わせながら、効果的に本研究会を進めてまいりました。御尽力いただきました指導者並びに会員の皆様、お世話になりました関係の皆様に、心より感謝申し上げます。

本年度は、主に以下のような事業を実施いたしました。

１　総会及び講演会　【６月１４日：オンライン開催】

・総会は、オンラインにて行いました。円滑な議事進行の基、昨年度の事業報告・決算報告、本年度の事業計画・予算案が承認されました。

・講演会では、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤博伸先生より、「生活科と総合的な学習の時間のよりよい実践に向けて」という演題で御講演をいただきました。講演会には、約１７０名を超える参加がありました。生活科においては幼児教育とのつながり、総合的な学習の時間においては授業づくりについて学ぶことができました。

２　第３２回研究発表会　【８月２日：オンライン開催】

・生活科の１実践と総合的な学習の２実践、合計３本の実践提案と研究協議を行い、共栄大学教育学部教授 小川聖子先生より指導講評をいただきました。提案に対して、効果と今後の見通しについて具体的に御指導をいただきました。

３　本研究会委嘱による授業研究会

・比企地区　鳩山町立亀井小学校　１０月１８日　【総合】
・埼葛地区　久喜市立清久小学校　１１月　６日　【総合】
・深谷･寄居地区　深谷市立上柴西小学校　１１月２４日　【生活】

各地区及び授業研究校では、貴重な授業提案と熱心な研究協議が行われました。指導者の先生方には丁寧な御指導をいただき、各地区の研究推進・研究交流が図られました。

４　指導事例集第３２集の刊行　【２月】

県内各地区から推薦された指導法研究委員が、２年間にわたり研究・実践し執筆した原稿を、オンライン会議にて検討を重ねて編集しました。児童生徒の興味関心を生かした実践が数多く紹介されています。広く県内各校での実践に御活用いただけたら幸いです。

結びに、本会報の発刊にあたり、御尽力いただきました編集委員の皆様並びに事務局の皆様に厚く御礼を申し上げ、挨拶といたします。

あいさつ

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課　指導主事　古畑　隆憲

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会におかれましては、令和５年度も大きな成果を収めて諸事業を終えられ、ここに研究収録を刊行されますこと、心よりお喜び申し上げます。また、本県の生活科、総合的な学習の時間の学習指導の充実に、多大な御尽力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、埼玉県では、平成３１年度から５年間の計画で実施されている「豊かな学びで　未来を拓く埼玉教育」を基本理念とした第３期埼玉県教育振興基本計画が最終年度を迎えています。本計画で掲げられた「確かな学力の育成」に向け、学校では、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善や、一人一台端末等による ICT 活用の充実を図ってまいりました。今後は、生成 AI など新たな情報技術が社会で活用されていく中、新たなテクノロジーにどのように向き合い、どのように学習に取り入れていくかという視点も必要になってきます。こうした変化の激しい社会においては、一人一人の体験から得られる学びや探究的な学びが一層重視され、生活科や総合的な学習の時間の充実がますます重要になってくると考えています。

今年度本研究会では、鳩山町立亀井小学校、久喜市立清久小学校、深谷市立上柴西小学校において授業研究委嘱校発表会を実施されるとともに、教育研究発表会、指導法研究委員会等を開催され、授業を基にした研究協議と実践研究の提案などが行われました。また、次年度に開催予定の第２６回関東地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会埼玉大会のプレ発表が熊谷市立新堀小学校で実施されました。本研究収録には、これら県内各地域で熱心に研究・実践された成果がまとめられております。是非、多くの方に授業改善の参考として御活用いただき、生活科及び総合的な学習の時間の充実に向けた取組が、各学校でより一層進められますことを期待しております。

結びに、県内の生活科、総合的な学習の時間の学習指導の充実と、本研究会のますますの発展を御祈念申し上げ、挨拶といたします。

さいたま市教育委員会学校教育部指導１課　主席指導主事　宍戸　貴久

令和５年度埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会の諸事業が多大な成果をあげ、ここに研究収録が刊行されますことに心からお祝いを申し上げます。また、日頃より本市の生活科、総合的な学習の時間の充実のために御尽力いただいておりますことに心より御礼申し上げます。

今年度から、「児童の気付きや概念的理解を質的に高める指導の工夫」を新たな研究主題に掲げ、授業委嘱等を通して研究を進めてこられました。生活科における「気付きの質」や総合的な学習の時間における「概念的理解」の高まりについて考察するとともに、児童生徒が変容したきっかけについて分析し、教師の適切な支援についても整理しようとする本研究は、児童生徒の変容と教師の支援の関係を明らかにするものであり、教師の指導力向上に確実につながる大変価値あるものです。

本研究収録にはこれからの生活科、総合的な学習の時間の授業の在り方を具体的に示唆する充実した実践が掲載されております。本市教育委員会といたしましては、今後も、埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会における取組や、県内の優れた授業実践等を市内に紹介するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の推進に努めてまいります。

結びに、この研究収録が各学校においてより多くの先生方に活用され、埼玉県及び本市の生活科、総合的な学習の時間の指導が充実されますことを期待するとともに、埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会がますます充実、発展されますことを御祈念申し上げ、挨拶といたします。

～　も　く　じ　～

まえがき　　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長　竹森　　努　　1

あいさつ　　埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事　古畑　隆憲
　　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主席指導主事　宍戸　貴久　　2

もくじ　----------　3

巻頭論文　今こそ生活科の原点へ～生活科誕生３０年を振り返る～
　　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会前会長　　田中　京子　　4

１　指導法研究委員会　指導事例報告　----------　8

２　第３２回生活科・総合的な学習の時間教育研究発表会報告　----------　３３

３　授業研究委嘱校報告　鳩山町立亀井小学校　----------　３７
　　久喜市立清久小学校
　　深谷市立上柴西小学校

４　令和５年度講演会記録　----------　４０

５　事業報告　----------　４４

６　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会会則　----------　４５

あとがき　　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会副会長　　萩原　美樹

編集委員の構成　----------　４７

令和５年度役員・理事一覧（別紙）

今こそ、生活科の原点へ

～生活科誕生３０年を振り返る～

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会
前会長　田中　京子　（前蕨市立西小学校長）

令和５年５月、ようやく新型コロナウイルス感染拡大予防の制限が緩和され、マスクをはずした子どもたちの生き生きとした笑顔が学校に戻ってきた。３年以上にわたって「人」や「もの」と直接触れ合う体験活動が大幅に制限され、足踏みを余儀なくされてきた生活科・総合的な学習の時間は、再び歩み始めている。

平成元年に「生活科」が誕生して３０年が経過し、令和の時代へと移ったところで、私たちは歴史的なパンデミックに遭遇した。社会や人々の暮らしは大きく変わり、子どもたちを取り巻く環境やそこでの子どもの育ちも変化している。ポストコロナに、生活科の学習を再開・再構築するに当たって、本来目指していた生活科のねらいや内容を今一度おさえておくことは重要であり、大きな意味があると考える。

令和４年度末で定年退職を迎えた私は、新教科「生活科」の誕生に立ち会い、その後、実践と研究を継続してきた。本稿では、自身の経験も踏まえながら改めて生活科誕生の歴史を振り返り、「生活科」は何を目指して誕生したのか、何を大切にしようとしていたのかを再確認し、生活科の原点を見つめてみたい。

１　生活科のあゆみを振り返る

(1) 学習指導要領の変遷と生活科の誕生

１９４７年（昭和２２年）に「学習指導要領・試案」が出されて以降、学習指導要領は、社会の変化や教育の進展に応じて約１０年おきに改訂されてきた。

簡単に変遷を追うと以下のようである。

昭和33年改訂…基礎学力の充実　系統的な学習の重視　道徳の時間の新設
昭和43年改訂…教育内容の一層の向上と増加「教育内容の現代化」
昭和52年改訂…ゆとりある充実した学校生活の実現　内容の精選･時数の削減
平成元年改訂…「新しい学力観」 社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成
★生活科の新設
平成10年改訂…21 世紀を切り拓く「生きる力」の育成　基礎･基本の確実な習得
自ら学び考える力の育成　**★総合的な学習の時間の新設**
平成20年改訂…知･徳･体のバランスのとれた「生きる力」の育成　「確かな学力」
外国語活動の導入
平成30年改訂…よりよい未来を創るための「生きる力」の育成　育成すべき「3つの資質･能力」
「主体的･対話的で深い学び」　外国語及び特別の教科･道徳の導入

生活科の新設は、戦後初めての教科改編であった。低学年の社会科と理科を廃止して、新しい教科が設置されたのであり、日本の教育の大きな転換点といえる。新教科設置に向けての動きは、昭和４０年代から始まっていた。「これまでの教科の区分にとらわれず、児童の発達段階に即した教育課程の構成が必要である」と、中央教育審議会（昭和４６年答申）で示されている。これを受けて、新教科設置の研究・実践・検討が重ねられ、約２０年に渡る形成過程を経て、平成元年に生活科新設となった。

生活科の背景となる教育思想は、ルソーやデューイに遡る。また、大正時代の自由教育運動における様々な実践が、生活科誕生の源流となっている。生活科は、教育の長い歴史と価値ある実践の積み重ねの成果として誕生したものなのである。生活科新設に当たっては、学習指導要領の公示や実施の前から様々な逆風が吹き、次の学習指導要領改訂では生活科はなくなるだろうとも言われていた。しかし、改訂のたびに生活科は残り、３０年余りが経過している。それは、生活科が低学年の教育に必要だからである。

(2) 生活科の現状と課題

生活科は、「子どもたちの生活」そのものを学習対象としているが、それはこの３０年間に大きく変化を遂げた。Society5.0 の到来、新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会は劇的に変化した。同時に、子どもが様々な体験や学びの場と機会を喪失したことの影響は計り知れない。さらに、子どもたちが生きる未来は、予測困難な正解がない社会であり、子どもたちが生き抜くために育成すべき力も変容してきている。

今回の学習指導要領改訂では、３０年積み重ねてきた生活科の実践の中で、低学年らしい思考や認識の育成が進んできていることが成果としてあげられている。引き続き充実が求められる。その一方、「『活動あって学びなし』にならないよう学習を成立させること」「幼児期～低学年～中学年以上の資質・能力育成のつながり・接続」が課題として示されている。コロナの影響、子どもを取り巻く環境の大きな変化と、これまでの生活科実践の成果と課題を踏まえて、今後の生活科の方向性を定め、新たな時代の価値ある学習活動を創り出していきたい。

(3) 生活科の理念は変わらない！

生活科は、学習指導要領の改訂を３回経てきており、実践の成果と課題を踏まえて少しずつ変わってきている。しかし、その理念は、誕生当初から変わらず揺らぐことはない。

①「はじめに子どもありき」

生活科は、子どもが主体の学習である。そのため、子どもの発達段階、低学年の学び方の特徴にそった学習展開を大切にする。子どもが、自らの興味・関心をもとに学習対象に向かい、直接関わり合う活動を通して、自ら学びを創っていく教科である。

②学習対象は「生活」である

子どもの生活にある「人・もの・こと」すなわち環境そのものが学習対象である。そこには「生活者」としての「自分」も含まれる。生活の主体、学習の主体である「自分」との関わりを重視する教科である。

③子どもの「生きる力」をはぐくむ

「生活」を学習対象としその生活を構成する「よりよい生活者」としての能力や態度をはぐくむことをねらいとしている。子ども自身の生活や生き方を豊かにすることを目指す教科である。

この３点は、生活科の本質であり、生活科学習の根底にしっかりと据えておきたい。

２　生活科新設にあたって、大切にされたこと

(1) 私の「生活科」との出会い

教員になって３年目の昭和６２年、私は校内研修で１年生社会科の研究授業を行うことになった。単元は「わたしのうち」(12 時間)、単元の目標は「自分たちの生活を支えている家族の仕事の様子や家族構成に気付く」「家族はいろいろな楽しみを持っていることに気付く」である。

研究授業は第１時、「うちの家族の記念写真をつくろう」を課題として、画用紙に家族の絵を描き、次時に家族紹介をし合うという計画であった。授業前、子どもから「ペットを描いてもいいですか。」という質問がでるのではないかと思ったので学年の先生方に相談すると、「気持ちは分かるけど家族に『ペット』は入れられないよね。『だめだよ』と言うしかないね。」ということになった。

研究授業が始まると、この予想は的中した。家族ぐるみで動物が大好きな A 君が私の所へ来て、こう質問した。「先生、うちに犬のポチがいるんだけど、ポチを描いてもいいですか。」私は、学年の先生と相談したとおり、「A 君の気持ちはわかるけど、今日は「家族」を描くので、ポチは描かないでね。」と答えた。A 君は、「えー、ポチだって家族なのに…」とつぶやき、うなだれながら自席へ戻っていった。これは３５年も前の出来事であるが、A 君の悲しそうな姿は今でも忘れられない。「ペットを家族だ」と思っている子どもの認識を否定することに、学習としての意味があるのだろうか～私の中に大きな疑問がわいた。

この疑問に答えてくれたのが、生活科の誕生であった。「生活科」との出会いは、1 年生社会科の指導でぶつかった問題を解決し、その後の私の教育観を方向づけるものとなった。

(2) 新しい教科「生活科」授業づくりの視点

生活科の新設が示され、学校現場では、それまでに経験したことのない新しい教科「生活科」について全職員で研修を重ね、準備を進めていった。そこで強調されたことは、「社会科＋理科＝生活科ではない」「従来の教科と異なる全く新しい教科が誕生する」ことであった。当時、生活科の研究先進校の発表会には、１０００人～２０００人を超える先生方が集まり、新たな学習の展開をどうしていったらよいか、懸命に探究していた。生活科の授業の特質として、次のような点を共有しながら、各学校が手探りで試行錯誤しながら、創生期の生活科の授業実践を進めていった。

①具体的な活動や体験から学ぶ

「教室から外へ出かけましょう」「学習の対象は、教室の外にある生活です」「遊びも学習です」

先生が黒板を背にして子どもたちの前に立ち、子どもたちは４５分間机に座っているのが、それまでの授業のイメージだった。生活科では、「具体的な活動や体験」が目標であり、内容でもある。子どもが動き出すことで、学習が始まるのである。熱中して活動する、遊びに没頭する、体を動かし、五感を働かせ、心が動く…そういった活動を子どもたちと一緒に創り出していくのが生活科である。

②子どもが新しく概念をつくる

「犬のジョンも家族です」「朝顔と太陽と自分を描いた観察カードも OK です」

社会科の認識では、家族は人で構成される社会の単位であるが、生活科では、大切に飼い共に生活している犬のジョンも家族であると捉えている「その子どもの認識」を大切にする。子ども自身が自らの体験をもとに創り出した概念に価値をおいているのである。朝顔と太陽と水やりをする自分を表現していることに、その子どもの認識を読み取る。成長する朝顔と太陽や水など成長するための環境、そしてそこに自分が関わっていることを表現しているのである。親学問を背景にした既成の概念を教わるのではなく、体験を通して子ども自身が考え、自分の概念を創っていく過程が生活科の学習である。

③低学年の認識の発達段階を踏まえる

幼児期から低学年の児童は、情緒と認識が未分化であることから、子どもの情緒も大切にする。「犬のジョンも家族」と考えるのは、まさに低学年の発達段階の特徴である。活動しながら考え、表現しまた考えるというように、思考と表現が一体化しているのも低学年児童の特徴である。

子どもの発達上の姿を大切にし、その姿にあった学び方を展開しようとするのが生活科である。

このような生活科の授業を創るには、「子どもを深く理解すること」「子どもをよく観察すること」「子どもの思いや願いを実現すること」が必要である。「スズメの学校からメダカの学校への転換」が求められた。生活科の誕生により、「学習観・授業観」「子ども観」「教師観」「学力観」が変わったのである。そして、これら生活科の方向性は、「生きる力」の理念そのものであり、「主体的・対話的で深い学び」「協働的な学習」「個別最適な学び」といった、今求められている学びに繋がっているのである。

３　これからの生活科授業づくりで大切にしたいこと

令和３年１月に「令和の日本型学校教育の構築を目指して」が示された。社会のあり方が劇的に変わる先行き不透明な予測困難な時代にあって、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識すること、あらゆる他者を尊重し、多様な人々と協働すること、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となれるようにすることが求められている。

令和４年１２月に示された「生徒指導提要」では、児童生徒一人一人が個性を発見し、よさや可能性を伸長すること、社会的資質・能力の発達や自己実現を支えることを目指している。いずれも、生活科の趣旨と重なるものである。

誕生以来変わるこのとのない生活科の理念や趣旨を大切にしながら、未来に生きる子どもたちの力を育むため、今後も次の点に配慮した授業づくりを進めていきたい。

①具体的な活動や体験を通すこと

具体的な活動や体験を行うことは、生活科の目標であり内容でもある。わずか６～８歳の低学年児童にとって、様々な活動の機会を失った３年間はとても大きい。今こそ、子ども自身の直接体験や具体的な活動を取り戻し、人やものとつながり合い、その意味や価値を丁寧に生活科の学習に位置付けたい。

②生活科で育つ力・育てる力を明確化すること

今回の学習指導要領では、すべての校種・教科等を通して「3 つの育成する資質・能力」が整理された。生活科のその単元の学習を通して、「子どもをどう育てたいか、どのような力を伸ばすのか」について、教師が願いと意図をしっかりともつことが必要である。学習指導要領解説に示されている子どもの姿を参考に、生活科授業の中で展開される子どもの活動や学びの姿を教員同士で見合い、検討して、生活科で育つ姿・育てる力の明確化を図り、授業実践につなげていきたい。

③子どもの力を育てるための教師の関わり方を明確にすること

「活動あって学びなし」 これは、生活科誕生当初から指摘されてきたことである。子どもたちが楽しく活動していれば、自然と学びが生まれるわけではない。生き生きと活動する中で生まれてくる思いや願い、気付きを表現させたり、引き出したり、関連付けたりして、学びを意味づけ、価値付け、発展させていく教師の指導・支援が必要である。ICT の有効活用を図りながら、一人一人の子どもの姿を効果的に捉え、学びを深める教師の在り方・働きかけ方をブラッシュアップしていきたい。

1　指導法研究委員会　指導事例報告

〔活動内容〕

生活科と総合的な学習の時間の授業における指導方法や評価方法について研究し、学習指導に役立てることを目的とする。

〔実践事例〕

【生活科（板書編）編】
◆主体的・対話的な活動を通して、気付きの質を高める指導の工夫（小１）
◆児童の経験を生かした気付きや願いをつなげる板書の工夫（小１）

【生活科（発話分析）編】
◆ICT を活用して、よさや課題を伝え合うことを通し、学びの質を高める発話分析（小１）

【総合（課題の設定）編】
◆児童の思いを繰り返し引き出し、自分事になる課題設定の工夫（小３）
◆児童の気付きや思いを生かした課題設定の工夫（小５）

【総合（情報の収集）編】
◆ICT（デジタル）と人との関り（アナログ）を活用した多様な方法での情報収集（中２）

【総合（整理・分析）編】
◆ICT 機器を取り入れた、整理・分析をする場面での工夫（小４）
◆探究課題にせまるための整理・分析の工夫（小６）

【総合（まとめ・表現）編】
◆外部人材を積極的に活用した、豊かな体験活動が生きるまとめ・表現（小４）
◆『整理・分析』の関連性を教師も児童も十分に意識した『まとめ・表現』（小６）

〔委員構成〕

顧　　問	埼玉大学名誉教授	林　信二郎
	元文教大学教授	嶋野　道弘
	共栄大学特任教授	若手三喜雄
	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事	古畑　隆憲
	さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事	岩崎真之介
	元埼玉県生活科教育研究会長	斎藤　和男
	元埼玉県生活科教育研究会長	浅見　恒夫
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	吉澤　　操
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	島貫　克彦
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	野口　一夫
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	名倉　稔夫
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	山田　直樹
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	大友みどり
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	小川　聖子
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	石橋　桂子
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	井原　政幸
	元埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	中居　武司
	前埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会長	田中　京子
会　　長	松伏町立松伏小学校長	竹森　　努
編 集 長	所沢市立東所沢小学校長	藤田　恵子
〃	春日部市立中野小学校長	安東由美子
副編集長	久喜市立清久小学校長	田上　智明
	越谷市立出羽小学校教頭	坂本　信之
	さいたま市立日進小学校教頭	茂木　千春
	さいたま市立仲本小学校教頭	新井　飛鳥
研究委員	落合ひかり（さいたま市立高砂小学校）	北原　　直（小鹿野町立三田川小学校）
	藏田　万葉（戸田市立芦原小学校）	溝口　萌菜（深谷市立幡羅小学校）
	戸部　　涼（上尾市立大石北小学校）	菊地　祐子（行田市立南河原小学校）
	五月女竜也（富士見市立南畑小学校）	宮野　優太（久喜市立栗橋小学校）
	豊田　淳喜（鳩山町立亀井小学校）	渡辺　開人（行田市立忍中学校）
幹　　事	横田　典久（埼玉大学教育学部附属小学校）	
	鈴木　康平（埼玉大学教育学部附属小学校）	

指導事例（１）

小学校【第１学年】　あきのおもちゃ　【１０月～１１月】

～ＩＣＴ端末を活用して、よさや課題を伝え合うことを通し、学びの質を高める発話分析～（２１時間）

１　評価計画の作成について

（１）単元の概要

本単元は、学習指導要領の内容（５）「季節の変化と生活」、（６）「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものである。ここでは、児童が身の回りの秋の自然物を利用したり、身近にある物を活用しておもちゃを作ったり、友達と伝え合いながら遊びを工夫したりする。自分たちが集めてきた葉や木の実などの自然物でおもちゃを作る面白さや自然の不思議さに気付いていく。

指導にあたっては、見付ける、比べる、繰り返し、試し、工夫しながらおもちゃ作りを行い、友達と協力をしてつくったり、遊んだり助け合ったりすることでお互いの気持ちや気付きを伝え合うようにさせたい。また、自分たちの力で遊びをつくったり工夫したりする楽しさやおもしろさを実感しながら、ICT 端末を活用し動画や写真で記録することで、自分たちや友達のアイディアや工夫等のよさに気付くことができるようにしたい。

単元の後半では、２年生と合同フェスティバルを開催する中で、お互いに紹介動画を作成することを通して、活動の中で気付いたり、工夫したりしたところや成功できる遊び方のコツ、楽しさ面白さを説明や動作化で表現する。動画を学習活動に取り入れることで、比べ、繰り返し、試しながら、話し合ったり説明したりすることで視覚的に捉えることができ、考えの共有化を図り、深い学びへと繋げていきたい。そして、２年生のおもちゃからも工夫を見付けたり、遊びに早く行きたいと感じたり、来年の自分たちはどうしたいのか、さらなる意欲を向上させるようにしたい。

（２）単元の目標

○秋の自然との関わりを通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を考え、見付けたりすることができ、自然の様子や春から夏、秋への変化に気付いたり、それを利用した遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活や工夫してつくった遊びを説明や動作化で伝えようとすることができるようにする。

（３）単元の評価規準

内容項目【（５）季節の変化と生活　（６）自然や物を使った遊び】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	秋の自然と関わる活動を通して、夏から秋の生活の様子の変化、自然の変化に気付き、それらを利用した遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、春・夏と秋の自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化の自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。

小単元における評価規準	1	①色や形、においなど、秋の校庭の事前の様子と、夏の自然の様子との違いに気付いている。	①幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然の特徴を探している。	
	2	②身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付いている。	②秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違いを探したり、校庭と公園の違いを見付けたりしている。	①秋の自然に関わりたいという思いをもち、全身を使って自然の特徴を探そうとしている。
	3	③季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わることに気付いている。	③秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使う自然物を選んでいる。	②秋の自然と関わりたいという思いをもち、試行錯誤しながら、秋の自然を生かして遊ぶことに楽しさと手応えを感じている。
	4	④遊びの楽しさや面白さや工夫した遊びを創り出す面白さ、自然の不思議さに気付いている。	④さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、遊びや遊びに使う物を工夫してつくると共に、おもちゃの楽しさや工夫などを説明や動作化で伝えている。	③自分で遊びを創り出す面白さを実感し、季節の遊びを楽しもうとしている。
	5	⑤みんなで創った遊びをする際に、遊びのルールなどを守っている。 ⑥自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく、遊ぶことができるようになったことに気付いている。		④自分の力で遊びを創り出す面白さ、達成感を実感し、これからも遊びを創り出し、友達が喜ぶ姿から充実感を味わおうとしている。

本単元では、「こうていであきをさがそう」「こうえんであきをさがそう」「はっぱやみであそぼう」「あきのおもちゃをつくってつたえよう」「いっしょにあそぼう」の５つの小単元から設定している。小単元の内容は、次の通りである。

①「こうていであきをさがそう」（３時間）

秋の自然の特徴を探し、動画や写真で秋の校庭の様子と夏の校庭の様子との違いを比べながら秋探しをする。

②「こうえんであきをさがそう」（３時間）

遠足先の公園の様子を観察したり、自然物に触って遊んだりしながら自然の変化に気付くことができるようにする。また、電子黒板で校庭の自然の特徴と公園の自然の特徴の比較をすることで新たな発見や遊びの思考の深まりを促す。

③「はっぱやみであそぼう」（３時間）

秋の自然と触れ合う活動の中で、葉や木の実、小枝を遊びながら並べることでアート作品にしたり、おもちゃに変身させたりする。動画で活動を記録しておくことで自然を生かした遊びを楽しむ気持ちを振り返り、意欲を高めることができるようにする。

④「あきのおもちゃをつくろう」（９時間）

秋の自然物を用いて、自分たちで作りたいおもちゃを話し合う。身の回りの材料から作りながら遊び、撮影した動画を見直して改良や工夫を行う。グループ内での交流や話し合い活動をすることでよさや課題を見付けていく。

⑤「いっしょにあそぼう」（３時間）

遊んでいる友達の気持ちを考えなら、自分がつくったおもちゃでも楽しく遊ぶことができる喜びに気付き、これからも創り出す意欲をもてるようにする。

（４）単元の指導と評価の計画（２１時間扱い）

時間	「小単元」 ◎ねらい ○学習活動 ICT端末	小単元の評価規準との関連	評価規準から想定した具体的な児童の姿 評価方法
3	「こうていであきをさがそう」 ◎校庭の秋探しを繰り返し行い、遊びを考えることができるようにする。 ○秋の校庭の様子と夏の校庭の様子との違いを比べながら秋探しをする。（２時間） ○見付けたこと、気付いたことをカメラ機能に保存したりワークシートに記入したりする。ICT端末（1時間）	知－① 思－①	・季節の変化に気付き、違いや秋のよさを見付けている。 行・つ・カ ・落ち葉や木の実の特徴を伝えている。 行・つ・カ ・秋の自然のよさや遊び方、おもしろさを表現している。 カ
3	「こうえんであきをさがそう」 ◎公園で秋を探したり、遊びを考えたりできるようにする。 ○校庭の様子と公園の様子との違いを比べながら秋探しをする。ICT端末（２時間） ○見付けたこと、気付いたことをワークシートに記入する。（1時間）	知－② 思－② 態－①	・身近な自然の変化に気付き、違いや秋のよさを見付けている。（具体例①） 行・つ・カ ・見付けた秋の物をワークシートに記録している。（具体例①） カ ・秋の自然のよさや遊び方、おもしろさを見付けている。 行・つ
	「はっぱやみであそぼう」 ◎自然を生かした遊びを楽しむことができるようにする。	知－③	・遊びを工夫する楽しさを、言葉で伝えている。 発・カ

3	○秋の自然を活かして、アート作品にしたり、おもちゃに変身させたりする。動画で振り返り、気付いたことをワークシートに記入する。 ICT 端末（3時間）	思－③ 態－②	・遊びを楽しみたいという願いをもち、意欲的に葉や木の実などを収集している。 行・つ ・秋の自然物の特徴を活かした遊びやアートを楽しんでいる。 行・作
9	「あきのおもちゃをつくろう」 ◎秋の自然物を用いて、おもちゃを作りながら遊ぶ。動画で見直したり、交流や話し合いをしたりすることでよさや課題を見付けることができるようにする。 ○おもちゃを工夫して作りながら遊び、自分がつくったおもちゃを改良しながら楽しさ面白さを知り、みんなで遊びを楽しむ。（6時間） ○作ったおもちゃで友達と一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるように作り方や遊び方を工夫し、成功できる遊び方のコツを伝え合う。 ICT 端末 （3時間）	知－④ 思－④ 態－③	・面白さや自然の不思議さ、もっと楽しくなる工夫を伝えようとしている。 行・発・カ ・遊び方を友達と比べて、遊ぶ物を改良している。 行・発・つ・作 ・おもちゃ作りで工夫したところや成功できる遊び方のコツ、楽しさやおもしろさ、工夫したことを説明や動作化等で伝えようとしている。 （具体例②）行・発・つ ・ICT 端末を活用して、改善点や課題点をアドバイスしようとしている。 （具体例③）発・つ・相 ・自然の特徴を生かして工夫しながら遊ぶものを作っている。 行・発・作
3	「いっしょにあそぼう」 ◎遊びに来る友達の気持ちを考えなら、自分たちの活動を創り出したり、計画を立てたりする意欲をもつことができるようにする。 ○遊び方やルールを紹介し、より楽しいと感じてもらえるように工夫できるようにする。（1時間） ○おもしろそうな遊びに関心をもったり、自分がつくったおもちゃでも楽しく遊んだりすることができる喜びに気付く。（2時間）	知－⑤ 知－⑥ 態－④	・遊ぶ友達にあった約束やルールを考えている。 行・つ ・みんなが楽しく、遊ぶことができるようになったことを伝えている。 つ・カ ・今までの活動を振り返り、創り出す喜びを感じている。 つ・カ ・道具や材料などの準備や片付けをしている。 行（※毎時間）

行…行動観察　発…発言　カ…カード　つ…つぶやき　相…相互評価　作…作品

２　評価の実際について

工夫したところや成功できる遊び方のコツ、楽しさやおもしろさを説明や動作化等で表現する。ICT 端末を活用し、比べ、繰り返し、試しながら、話し合ったり説明したりすることで視覚的に捉えることができ、考えの共有化を図り、深い学びへと繋げていきたい。

具体例① 行動・発言・つぶやきから、知－②を評価する。

○小単元における評価規準

身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付いている。

○これまでの児童の姿と支援

春、夏と、本校のシンボルの木（すずかけの木）の葉の色、葉の大きさ、葉の量などを ICT 端末を活用して記録に残し、変容を観察した。また、風の涼しさ、生暖かさ、熱風でも変化を感じることができることに気付いた。外の蛇口から流れる水の冷たさ、ぬるさ、熱さからも季節の変化に目を向けて季節の様子を楽しむ姿が見られた。ICT 端末の記録より想起させ、発言や行動からの気付きを称賛した。

○実際の児童の姿と評価

校庭と公園での、葉の種類、葉の形などの違いを見付け、比べていたことから気付きの質が高まり児童の視野が広がった。

C１「すずかけの木の葉っぱが、茶色になってる。」
T　「**急に茶色になったのかな？**」
C１「・・・・どうだっただろう？」
C２「急じゃなかったよ。緑と黄色みたいな茶色みたいな色が混ざっていた時もあったよ。」
C３「茶色の葉っぱは、くしゃくしゃの手みたいだ。」
T　「本当だね。**夏はどうだった？**」
C４「タブレットで見たら、ピンとしていて、つるつるしているようにみえたよ。」
C５「タブレットで見比べると葉っぱの量も多い。もさもさして元気がいいね。」

C４　「校庭で見ない黄色い葉っぱがいっぱいだね。」
T　「そこにあるね。」
C４　「あっちにもいっぱいあるよ。」
T　「よく見つけたね。**他にあるかな？**」
C５　「黄色だけじゃなくて、オレンジ、赤もあるよ。きれいだよ。」
T　「**なんでいろんな色に変身するの？**」
C５　「寒くなると紅葉するんだよ。」
C４　「ぼくの手も寒いと赤くなる！」
T　「**どんな時に赤くなるの？**」
C４　「最近登校する時、手が赤くなるよ。」
C５　「これからは、水で手を洗うのも嫌だな。」

身近な自然の変化に気付き、違いや秋のよさを見付けている。　行・つ・カ
見付けた秋の物をワークシートに記録している。　カ【知－②】

（波下線部…教師が見取る「価値ある気付き」の例）
（下線部…気付きを深めるための意図的発問・発言）

校庭と遠足先の公園では、木々の種類や、葉の形、色の違いに到着早々、思いを爆発させていた。植物だけでなく風や葉がこすれ合う音、鳥のさえずり等に気付くことができた。校庭、遠足では、２年生との合同班を組み、秋探しビンゴを行った。場所によって違うものがあることや１年生では気付かないことを２年生から教えてもらい、新たな発見をする機会にもなった。

校庭と公園での、葉の種類、葉の形などの違いを見付け、比べていたことから気付きの質が高まり児童の視野が広がった。

ひっつきむしについて、本で調べ、知ったことを伝えていた。

具体例②　行動・発言・つぶやきから、思―④を評価する。

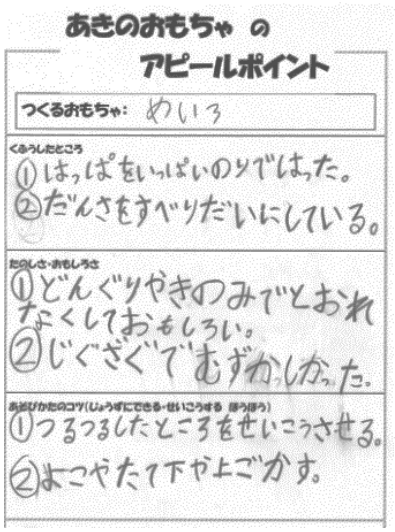
○小単元における評価規準

さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、遊びや遊びに使う物を工夫してつくるとともに、おもちゃの楽しさや工夫などを説明や動作化で伝えている。

○これまでの児童の姿と支援

自分たちのおもちゃで遊び、楽しさや面白さ、難しさを共有し、ワークシートに記入した。その中で特に困難なことについて、成功するコツを一生懸命考えていた。できるようにするために ICT 端末でその都度動画を撮影し、動き方を比べて繰り返すことで成功するコツを見付け出すことができた。

○実際の児童の姿と評価



C１　「めいろの途中で段差があって、どんぐりが飛び出して成功しない。」

T　「**隣の道に行かないようにするにはどうすればいい？**」

C１　「木を上２段にして、壁を高くしよう。」

T　「高くしたら飛び出さないかもね。」

C２　「滑り台みたいにして、段差をなくす。」

T　「**滑り台には何を使ったらいい？**」

C２　「葉っぱかな。紙かな。試してみて成功する方にしよう。」

C２　「硬い葉っぱだとまた段差ができちゃうな。」

C１　「薄い葉っぱだとパリパリで壊れちゃう。」

C２　「紙だったら成功しそうだね。」

（波下線部…教師が見取る「価値ある気付き」の例）
（下線部…気付きを深めるための意図的発問・発言）

おもちゃ作りで工夫したところや成功できる遊び方のコツ、楽しさやおもしろさ、工夫したことを説明や動作化等で伝えようとしている。　行・発・つ　【思－④】

めいろの道を形成するだけでは、つまらないことに気付き難しくするための工夫をし始めた。ジグザグにしたり、行き止まりを作ったりすることで楽しさを見付け出した。しかし、工夫することでボール代わりのどんぐりが飛び出し成功率が下がってしまうことに直面した。自分たちでもイライラしたり諦めてしまったり、面白さが継続しない。動画撮影を行いながら、失敗してしまう箇所をどのようにすれば攻略できるか、ボール代わりのどんぐりの種類（大きさ・形）で転がり方の違いがあるのか、繰り返し試したり、話し合ったりして課題解決に取り組むことができた。

具体例③ 行動・発言・つぶやきから、態－③を評価する。

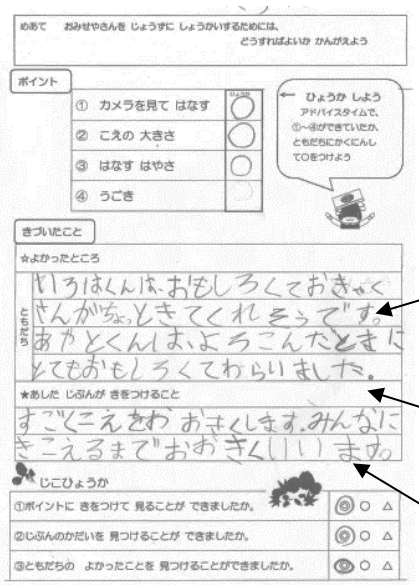
○小単元における評価規準

自分で遊びを創り出す面白さを実感し、季節の遊びを楽しもうとしている。

○これまでの児童の姿と支援

おもちゃのやり方の説明や、楽しく遊ぶコツは、文章を考え、伝えられた。しかし、お客さんが遊んでみたいなと思える楽しい紹介動画にするためには、もうひと工夫をどうすればよいのか考えさせた。その中で、「①カメラを見て話す。」「②声の大きさ」「③話す速さ。」「④動き。（成功するコツなど）」に気付き始めた。動画撮影をすることで自分やグループのメンバーのことを見直し話し合い伝え合いをすることで改善する姿が見られた。

○実際の児童の姿と評価



T　「秋相撲班は、スムーズに言えるようになってきたね。」

C1　「やり方は、箱を叩くだけ。簡単。」

T　「**叩くだけで、3歳の幼稚園児は成功しそうかな？**」

C１　「力いっぱい、叩いちゃう子もいるかもしれない。」

T　「どうすればわかるかな？」

C２　「成功する叩き方と失敗する叩き方を見せてあげるとわかる。」

T　「**説明だけでなく成功する動きをやってあげると丁寧だよね。**」

T　「このお店屋さんに行きたいなと思ってもらうにはどうする？」

C１　「成功した時、嬉しそうにする動画にすると喜ぶね。」

C２　「明るく元気にスタートするともっと良くなるよ。」

自分たちの様子を振り返り、伝え合いをしている

C１　「今当たったね。どうやったの？」
C２　「手首を曲げるといいよ。」
C1　「早くてよく見えなかったよ。」
C２「ゆっくり動かしているところを見せてあげるといいかもよ。」
C１　「しゃがんで、手首をまっすぐにする。」
T　「上手にできるコツかな？」
C１　「できたからコツ。もう１回やってみる。」
C２　「コツかもね。幼稚園児は手首わかるかな？」
C１　「手首は、『ここだよ』って指で指して画面に映せばいいじゃない。」

（波下線部…教師が見取る「価値ある気付き」の例）
（下線部…気付きを深めるための意図的発問・発言）

ICT 端末を活用して、改善点や課題点をアドバイスしようとしている。　発・つ・相　【態－③】

児童は自分のグループが作成したおもちゃのＣＭの内容が完璧だと思っていた。他グループが客観的に動画を視聴することで、「分かりづらい」「どうやるの？」「こうすればよいのではないか」と意見が飛んだ。１年生で分からないことは、幼稚園児はもっと分からないことに自分たちだけでは気付けなかったことに気付いてもらうことができた。さらに、ICT 端末を活用して自分たちの動きを繰り返し見直すことが細かいところまで確認することができた。１度で解決しなかったことや把握しきれなかった部分を再度確認し、グループ内でも具体的に共有して伝えることができた。

実践を終えて

児童の気付きの質を高めるためには、①直接関わり、興味関心をもたせる（気付き・見付ける）②友達とやりたいことやできそうなことを伝え合う（交流・比べる）③自分や友達の良さに気付き、目的意識をもち、遊びを考える（見通し・試す・工夫）④目的意識を明確にし、遊びを考える（振り返る・伝え合い）⑤学習の過程や結果を表現する（学びの実現）を展開してくことが大切である。

生活科は、上記の「①気付き・見付ける②交流・比べる③見通し・試す・工夫④振り返る・伝え合う」を継続して行うことで「⑤学びの実現」をより良くすることができる。課題解決のために、話し合い活動を行い、友達の課題や良さを伝え合い、協力して課題解決にあたらせる。児童自らの課題に気付き、解決につなげる活動をすることで一人一人の思いや願いを活かした多様な活動に繋がる。活動する仲間のことを考え、遊ぶ対象者を思いやる気持ちをもちながら、児童の学びや気付きの質の向上に取り組んでいけるような活動をしていきたい。

指導事例（２）

第５学年 ふるさと探検隊～亀井の農業～【４～３月】
～児童の気付きや思いを生かした課題設定の工夫～　（５０時間）

本校がある地域には、多様で豊富な学習材がある。本校では、４年間の総合的な学習の時間の中で、多くの地域の学習材と繰り返し関わりながら学習を進めている。５年生で取り組んだ本単元では、地域で盛んな稲作と、それに携わる人々と繰り返し関わる中で、稲作の仕方や大変さ、稲作に関わる人々の思いや願いに気付いていく。そして、地域や日本が抱えている農業に関する課題を見つけ、自分たちができることを考え、実践していく。

総合的な学習の時間においては、児童自らが課題意識をもち、それが連続発展することが欠かせない。そのために、本実践では、体験活動で得た児童の気付きや、学習の振り返りの中で生まれた児童の思いなどを生かしながら、また、他教科で学習したことを関連づけながら新たな課題を設定できるようにした。

１　児童の実態と教材について

本校のある地域には豊かな自然が広がり、多様な動植物や自然環境に囲まれながら児童は生活している。そのような環境の中で児童は、３年生の総合的な学習の時間において、地域の農家と関わりながら「大豆」を教材にして探究的な学びを展開してきた。また、例年５年生が総合的な学習の時間において田植えや稲刈りをしている様子を見てきている。これらのことから、児童には「５年生の総合では稲作をやる」という意識がある。

このような実態から、児童の気付きや思いを生かしながら授業を展開し、また学習の中で児童自らが課題を設定できるようにし、探究的な学習が連続発展していくようにした。その中で、児童が、稲作の方法だけでなく、地域では営農組合の方々が協力して農業を行っていること、地域の農業に関わる人が減少していること、農家の方々は「地域の農業に関わってほしい」「地域で栽培したお米を食べてほしい」といった思いや願いをもっていること、お米の消費が日本全体で落ち込んでいることなどに気付くことができるようにしていく。気付いたこれらのことに対して、自分たちができることを考え、実践していくような学習を展開した。

２　単元の目標

地域の農家の方々と関わりながら取り組む稲作を通して、稲作の仕方や大変さ、農家の人々の思いや願い、また、農業に関する課題を理解し、その課題をよりよく解決するための方法を考え、実践するとともに、地域や農業との関わり方を考え、自身の生活に生かそうとすることができるようにする。

３　探究課題

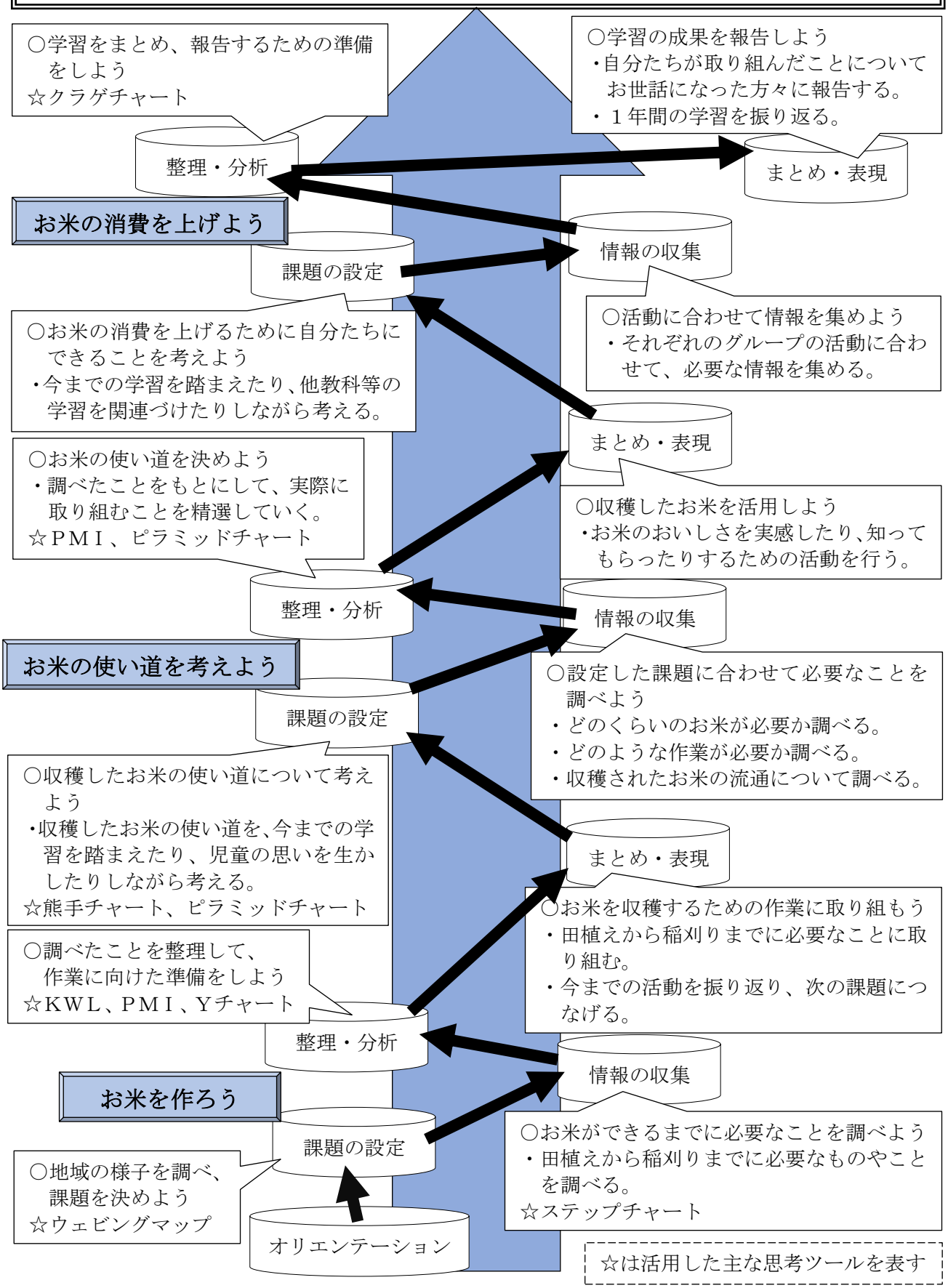
「地域の稲作と、それに関わる人々の思いや願い」

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① よりよい稲作の方法や、稲作に関わる人々の思いや願い、農業に関する課題について理解している。 ② 調査活動を目的に応じた適切さで実施している。 ③ 農業に関する理解の深まりや、農業に対する意識の変容は、地域の方々と関わりながら探究的に学習してきた成果であることに気付いている。	① 稲作や、地域の農業に関する課題について、他教科等の学習と関連させながら、自己の疑問や好奇心から課題を設定し、解決に向けて自分にできることを考えている。 ② よりよい稲作のための方法や、地域の農業に関して設定した課題を解決するための情報を、相手や目的に応じて選択し、収集している。 ③ 活動を通して収集した情報を、選択したり、比較したり、関係付けたりして、課題の解決に向けて考えている。 ④ よりよい稲作に関することや、農業に関する課題をよりよく解決する方法について考えをまとめ、相手や目的に応じて工夫して表現している。	① 課題解決に向けて自分や他者のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ② 友達や地域の方との関わりを大切にし、多様な考えを生かしながら協働的に探究的な学習に取り組もうとしている。 ③ 地域や地域の方との関わりを通して、自分にできることを考え、行動しようとしている。

５　活動の流れ

稲作や農業に関する課題を解決する活動を通して、地域や農業への関わり方を考えることができる。



６　単元の指導計画・評価計画（５０時間扱い）

◎探究課題「地域の稲作と、それに関わる人々の思いや願い」

○これまでの学習との関連
・３年　大豆大発見　（総合）
・４年　聞き取りメモの工夫　（国語）
・４年　春の生き物　など　（理科）

探究の過程	○学習活動 ・予想される児童の意識や姿(時間)	○指導上の留意点	評価規準 評価方法
	○オリエンテーション（１）	○総合的な学習の時間の進め方やねらいについて確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。 ○総合ノートを有効的に活用できるようにする。	
課題の設定	**お米を作ろう** ○学校の周りの様子を思い出したり、調べたりして学習対象を定める。（２） ・田畑ばかりだね。 ・何を栽培しているのかな。 ・大豆を作ったことあるけど、稲は育てたことないね。 ・稲はどんな風に育てるのだろう。	○大豆の栽培をしたことを想起させ、過去の学習と関連づけながら学べるようにする。 ○ＩＣＴ端末を活用し、周辺の様子を写真に記録し、活用することができるようにする。 ○児童の意識と、地域の実態のずれを実感できるようにし、児童自らが課題意識をもてるようにする。 	思① 発言 行動 記述
情報の収集	○稲の育て方を調べる（１） ・大豆の育て方とどんな違いがあるのだろう。 ・実際に農家の人にも話を聞いてみたいな。 	○大豆の栽培方法との比較をさせ、稲作りへの興味を高める。 ○地域の農家へ講話を依頼し、地域の実態に合った稲の栽培方法について知ることができるようにする。 ○地域の農家と繰り返し関わることで、農業に携わる人々の思いや願いに気付くことができるようにする。	思② 発言 記述
整理分析	○稲の育て方について調べたことを整理し、クラスで共有する。（１） ・自分たちもお米を作ってみたいな。 ・田んぼや苗が必要だね。 ・農家の人にお願いしてみよう。	○事前に地域の方と入念に打ち合わせをしておき、次の活動にスムーズに入れるようにする。 ○ＰＭＩチャートを活用し、順序立てて考えられるようにする。	思③ 発言 記述
課題の設定 情報の収集	○田植えの計画を立てる。（１） ・農家の人に手伝ってもらいたいな。 ・必要な道具は何かな。 ・今は機械があって便利だね。 	○適切に農家の方と関わることができるように、電話の仕方や言葉の遣い方などを指導しておく。 ○稲作の目的を明確にし、体験活動にとどまらないようにする。 ○地域の農家と繰り返し関わることで、農家の思いや願い、地域が抱える農業に関する課題に気付くことができるようにする。	態② 行動 記述
まとめ表現	○田植えをする。（２） ・手で植えるのは大変だ。 ・農家の人はこんなに広い田んぼにたくさんの苗を植えているんだ。すごいな。	○田植えの計画を保護者にも十分に周知し、安全に活動できるようにする。 ○活動中の気付きや疑問が以後の学習につながるようにする。 	態① 行動 記述
課題の設定	○稲の世話について考える（１） ・どんな世話の仕方があるのかな。	○理科の学習と関連させ、他の植物の世話の仕方と比較しながら考えられるようにする。	思① 発言

情報の収集	○世話の仕方を考えるために田んぼを観察し、記録する。（1） ・早く大きくなってほしいな ・水の管理はどうしているのかな。	○観察カードを活用し、定期的に観察できるようにする。 ○理科で栽培している他の植物と比較しながら観察できるようにする。	思② 行動 記述
整理分析 まとめ表現	○集めた情報を整理、分析し、クラスで共有する。（1） ・定期的に観察をする必要があるね。 ・実が付く前にかかしを設置したいね。	○ＫＷＬを活用し、集めた情報を観点毎に整理・分析できるようにする。	思③ 発言 記述
情報の収集 整理分析	○世話に関する情報を集め、取り組む世話を精選していく。（1） ・鳥が寄ってくるからかかしを作りたいな。 ・かかしを作るとよさそうだ。 ・水の管理は難しそうだね。	○本、インターネット、電話など、多様な方法で情報を集めることができるようにする。 ○自分たちでできるものかどうかという視点をもたせ、情報をあつめることができるようにする。	思② 発言 記述
情報の収集	○自分たちにできる世話を実行していく。（1） ・かかしを作るには、どんな材料が必要かな。 ・かかしを立てる許可をとらなきゃいけないね。 ・グループで協力して作ろう。	○自分たちにできることに絞り、実行していく。 ○地域の農家と事前に打ち合わせをしておき、子供の活動がスムーズに行えるようにする。 ○処分することも考え、「作る責任」についても考えられるようにする。	思② 発言 記述
まとめ表現	○かかしを作る。（3） ・意外と簡単にできるね。 ・これで鳥が寄ってこなくなるといいね。	○ペンチや針金などの使い方、裁縫の仕方など他教科で習得した資質・能力を生かせるようにする。 	思④ 行動 作成物
まとめ表現	○今までの学習を振り返る。（1） ・お米ができるのが楽しみだな。 ・夏休み中も様子を見に来よう。	○今までの学習の軌跡を板書し、それを参考にして振り返ることができるようにする。 ○ＩＣＴ端末を活用した振り返りを行い、一覧で見合えるようにする。	知① 記述
情報の収集 整理分析	○田んぼを観察し、分かったことを記録、整理する。（2） ・ずいぶん大きくなったね。 ・夏休み中も地域の人たちが世話をしてくれていたのかな。 ・そろそろ稲刈りするのかな。	○雑草の様子や、水の具合などから夏休み中にも農家の方がお世話をしてくれたことに気付けるようにする。 ○タブレット端末を活用し、観察記録を蓄積できるようにするとともに、今までの観察の様子と比べることができるようにする。	知② 行動 記述
課題の設定	○課題を設定する（1） ・稲刈りをしたいね ・食べられる状態になるまでに、どんな作業が必要なのかな	○児童の思いや願いを生かした課題設定を行い、児童が主体的に学ぶことができるようにする。	思① 発言 記述
情報の収集	○稲刈りや稲刈りのあとの活動について調べる（1） ・全部手作業でやるのは大変だね。 ・農家の方にも手伝ってもらいたい。 ・全部で８８個の作業があるよ。	○農家の方に協力いただけるよう、事前に打ち合わせをしておく。 ○ステップチャートを活用し、順序立てて考えられるようにする。 	思② 記述
まとめ表現	○精米までの活動を行う（4） ・稲刈りは楽しいけど、全部手作業じゃ大変だね。	○手作業と機械の両方を体験することで、機械でできることの便利さや、機械を購入するためのしくみについて考えられるようにする。	態② 行動 記述

	・刈り取った稲を全部手作業で脱穀するのかな。 ・もみすりや精米も機械でないと難しいね。 	○安全に活動できるよう配慮する。 ○農家の方に協力していただけるよう、事前に十分な打ち合わせを行っておく。 	
課題の設定	**お米の使い道を考えよう** ○作られたお米の行方について考える（1） ・地域でとれたたくさんのお米はどこへ行くのだろう。 ・近くにあるライスセンターが関係していそうだ。	○自分たちが収穫したお米だけでなく、地域で収穫された大量のお米についても考えられるようにする。 ○学習のねらいが達成できるよう、ライスセンターや直売所とは事前に打ち合わせをしておく。	思① 発言 記述
情報の収集	○米の行方について調査する（2） ・ライスセンターでは、大量の米を取り扱っているんだね。 ・地域のお米は直売所で売られているね。 ・給食でも出ていることが分かったよ。	○実地調査や電話など多様な方法で調査できるようにする。 	知② 行動 記述
情報の収集 整理 分析	○お米の調理方法を知る。（2） ・自分たちで作ったお米、食べてみたいな。 ・ごはんの炊き方が分かったね ・お米には栄養がつまっているね	○家庭科の学習との関連を図り、教科横断的な学習となるようにする。	思③ 発言 記述
まとめ 表現	○米を調理して実食する。（2） ・自分たちで作ったお米は、特別に美味しいな。 ・これからも地域で採れたお米を食べていこう。 ・家でも作ってみたいな。	○家庭科の学習との関連を図り、教科横断的な学習となるようにするとともに、よりおいしさを実感したり、農家の思いに触れたりできるようにする。 	態③ 行動 記述
まとめ 表現	○今までの学習を振り返る。（1） ・ご飯が食べられるまで、大変な作業がたくさんあったね。 ・たくさんの地域の人に手伝ってもらったね。 ・余ったお米を、お世話になった人たちのために使いたいな。	○４月からの学習を想起させ、収穫したお米が、自分たちだけのものではないということを考えられるようにする。	態③ 発言 記述
課題の設定	**お米の消費を上げよう** ○課題を設定する（1） ・お世話になった農家の人たちにもお礼がしたいな。 ・とても美味しいのに、お米の消費が落ち込んでいるのはなぜだろう。 ・お米の消費を上げていきたいな。	○児童の思いや願いを生かすとともに、今までの学習や、社会科での学習を関連づけながら課題を設定できるようにする。 ○熊手チャートを活用し、お米の使い道の可能性を探ることができるようにする。	思① 発言 記述
情報の収集	○お米の消費について実態を調査する。（2） ・地域でのお米の消費はどうなっているのかな。 ・アンケートをとってみよう。	○ＩＣＴ端末のアンケート機能を活用し、調査が児童でも簡単にできるようにするとともに、より多くの回答が得られるようにする。	知② 行動 記述

整理 分析 まとめ 表現	○お米の消費について地域の実態を分析し、共有する。（1） ・地域で採れたお米を食べている人は少ないね。 ・地域のお米をもっと食べてもらうようにしていきたいね。	○ＩＣＴを活用すると、効率よくアンケート結果を整理・分析できることに気付くことができるようにする。 	思③ 発言 記述
課題の 設定 情報の 収集	○お米の消費を上げるための方法を考える。（1） ・僕たちはお米のおいしさを伝えたいな。 ・わたしたちはご飯が進むようなおかずを作りたいな。	○児童の思いや願い、農家の方の思いや願いの両方がかなえられるような方法を考えられるようにする。 ○国語科の学習と関連づけて、話し合いができるようにする。	態③ 発言 記述
整理 分析	○考えついたことについて、より効果的に伝える方法を考える。（1） ・どのように伝えるといいかな。 ・誰に伝えるといいかな。	○ピラミッドチャートを活用し、伝え方や伝える相手を焦点化していくことができるようにする。 	思③ 発言 記述
情報の 収集	○それぞれの取り組みについて情報の収集を集める。（2） ・動画の作り方を知りたいな。 ・おかずの作り方を教わりたいな。	○ＩＣＴ支援員や栄養教諭と協働して活動できるよう、打ち合わせを十分にしておく。 	思② 発言 記述
情報の 収集	○調理や動画作りについて講義を受ける。（3） ・調理のコツが分かったね。 ・これで動画が作れそうだ。	○家庭科との関連を図り、安全に調理できるようにする。 ○各専門家からレクチャーを受けることで、主体的、協働的な学習となるようにする。 	態② 行動 記述
整理 分析	○自分たちの取り組みを効果的に伝えられるように準備をする。（4） ・ご飯にもっと合うように味付けを工夫しないといけないね。 ・誰が見ても分かりやすい動画にしたいな。	○準備の時間を十分に設け、必要な情報の収集を適した方法で効果的に伝えられるようにする。 ○適宜ＩＣＴ支援員や栄養教諭にも助言をもらえるよう、体制を整えておく。 	思③ 発言 記述
まとめ 表現	○自分たちが取り組んできたことを報告する。（1） ・動画で地域のお米のおいしさをＰＲします。 ・ごはんに合うおいしいおかずができました。 	○今までお世話になった方々を招き、成果を報告できるようにする。 ○感想や意見をいただき、今後の学習にもつなげることができるようにする。 	思④ 発表 作成物 記述
まとめ 表現	○１年間の学習を振り返る。（1） ・多くの人と協力して学習できた。 ・町に住む一人としてこれからも自分にできることをしていきたい。 ・来年の総合も楽しみだ。	○１年間の学びを十分に振り返る時間を設けるとともに、それぞれの振り返りを交流し、友達の思いなどにも気付くことができるようにする。	知③ 記述

7　活動の実際

（１）体験活動で得た気付きを生かした課題設定の工夫

単元の初めに地域に対する児童の意識を探った。普段何気なく生活しているだけでは、児童の生活に関わりがあり、地域で目立つものしか意識の中にはない。このような状態でまち探検を行い、見つけたものや気になるものを記録していくと、自分たちが思っていた地域の様子と、実際の様子は全然違うことに気付いてくる。まち探検時にはＩＣＴ端末をもっていき、児童一人一人が写真に記録できるようにした。

探検前の児童の意識（ウェビングマップ）

探検後の児童の意識（ウェビングマップ）

イメージの広がりも狭く、自分達の生活に関わるものしか出てこない。地域に対する意識が低い様子が分かる。

実際に見たり、聞いたり、体験したりしたことで、イメージが広がった。探検を通して見つけたものを共有し、地域を特徴付けるものが何かを分析した。

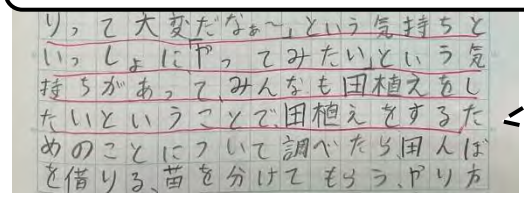
このように、児童の意識と、地域の実際の様子との「ずれ」を感じさせることができた。学習対象への興味が高まったこのタイミングで課題設定を行うことで、児童の中に学習意欲や、学習の必然性が生まれてくる。また、本時の学習を進める中で生まれた児童の気付きや疑問を生かすことで、情報収集の方法や対象を明確にし、次時以降の学習へとつなげることができた。

（２）児童の振り返りを生かした課題設定の工夫

学習を進める中で、本校の例年の取組から、「５年生は田植えや稲刈りをやらされるものだ」という意識の児童がいることに気付いた。その意識のままでは、主体的な学習とは言えない。

毎時間の学習の振り返り中で生まれた、児童の思いや願い、気付きを次時以降の学習に生かすことで、連続的で主体的な学習が展開できるようにした。

次の活動が「田植え」をするということに決まった後のM児の振り返り（抜粋）

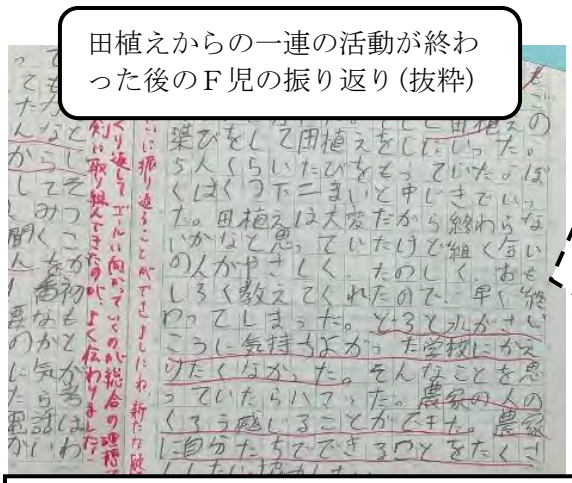

りって大変だなぁ～、という気持ち
といっしょにやってみたいという気
持ちがあってみんなも田植えをし
たいということで、田植えをするた
めのことについて調べたら田んぼ
を借りる、苗を分けてもらう、やり方

～～～「お米作りって大変だなぁ～」という気持ちといっしょに「やってみたい」という気持ちがあって、みんなも田植えをしたいということで、田植えをするためのことについて調べたら、**田んぼを借りる、苗を分けてもらう、やり方を教えてもらう必要がある**ことが分かった。～～～

この気付きを次時の授業で取り上げることで…

田植えをするには必要なことがたくさんあることが、全員で共有することができ、「田植えをするために、必要な人・もの・ことを集めよう」という課題を全員で立てることができた。

電話で「田んぼを借りる」などをお願いする様子。



田植えからの一連の活動が終わった後のＦ児の振り返り（抜粋）

～～～田植えは大変だから終わらないかなと思っていたけど、組合の人がやさしく、たのしく、おもしろく教えてくれたので、早く終わってしまった。どろと水がさいこうに気持ちよかった。学校に帰りたくなかった。そんなことを思っていたらハマった。**農家の人のくろうを感じることができた。農家に自分たちでできることをたくさんしたい。協力したい。**

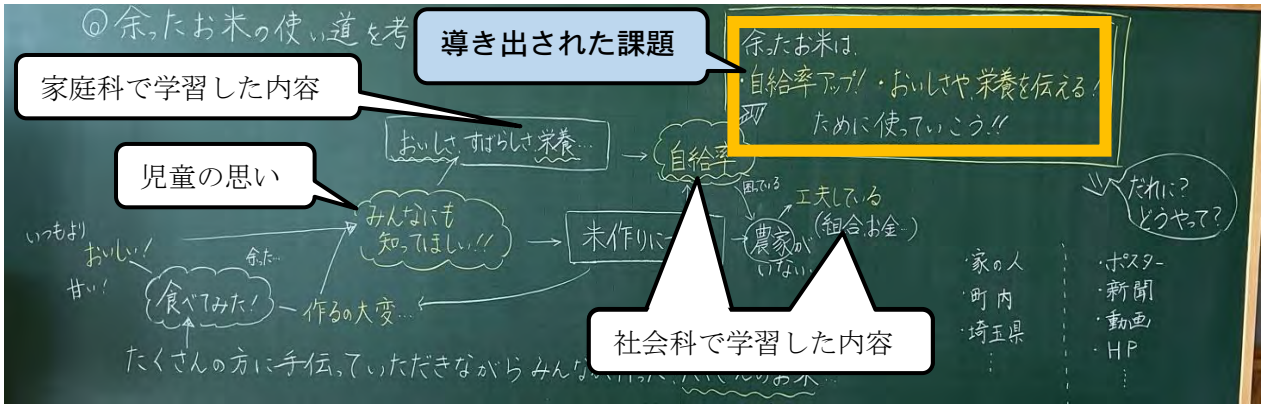
この思いを授業で取り上げることで…

「収穫したお米の使い道を考えよう」という課題を立てることができた。また、その使い道も、自分たちだけでなく、お世話になった方々に還元していきたいという方向につなげることができた。

このように、児童の振り返りの中で生まれた思いや願い、気付きなどを授業の中で取り上げながら進めることで、学習がより主体的で連続発展的なものとなっていった。また、３学期からはＩＣＴ端末を活用した振り返りを行うようにした。そうすることで、友達の振り返りが一覧で見ることができるようにしたことで、友達の気付きや思いから、新たな課題を設定する場面も設定できた。

（３）他教科で習得した資質能力を関連づけた課題設定の工夫

総合的な学習の時間では、他教科等で身に付けた資質・能力を相互に関連付けることが欠かせない。５年生社会科の「米作りが盛んな地域」や「これからの食料生産とわたしたち」では、米作りや食料生産について学ぶ。また、家庭科の「食べて元気に」では、お米の栄養や調理方法について学ぶ。それらの学習で得た資質・能力を関連付けたり、合科的に学習したりすることで、充実した探究的な学習が展開できると考えた。また、児童は単元の初めから、農家の方の「お米の消費が落ち込んでいて困っている」「地域で採れたお米をもっと食べてほしい」などの思いに触れており、それらも踏まえて、お米の使い道について考えていった。



自分たちが収穫したお米の使い道について、他教科等で学習した内容や、児童の思いなどを構造的に板書していき、「お世話になった人たちのためにも使いたい」「お米の消費を上げていきたい」というゴールを明確にすることができた。そして、そのゴールにたどり着くために、発信する内容や方法について、情報の収集、整理・分析をしていく活動につながっていった。

８　成果と課題

○児童の気付きや思いを生かした課題設定を行うことで、学習がより主体的で連続発展的なものとなり、児童が本気で学習に取り組む様子がよく見られた。

○課題を児童自ら立てることができるようにすることで、お米を作る活動だけで終わらず、その先の自分の生活の仕方まで考えるような学習につなげることができた。

●より効果的な学習となるよう、誰のどのような気付きや思いを生かすのか精選する必要がある。

●児童の気付きや思いを生かして授業を展開するには、想定以上に時間が必要になる。カリキュラムマネジメントにさらに取り組み、児童の学習機会を十分に確保していく必要がある。

指導事例（３）

中学校【第２学年】　プロジェクトＳ　～杉戸町観光大使になろう～【９月～２月】

～ICT（デジタル）と人との関り（アナログ）を活用した多様な方法での情報収集～（４０時間）

本実践は、感染症の影響により、毎年２学年で実施する予定である職場体験活動に代わるキャリア教育の一環として行った実践である。観光大使は、本来の職場体験学習で培うことができる、「働くことの意義」や「ビジネスマナー」、「地域の一員であるという自覚」に加え、より多くの人に認知してもらうために様々な方法を駆使して、工夫して伝える「経営・広報」としての力も必要となる。また、近年、情報収集としての視点では、情報技術の発達により ICT の効果的な活用も重要な役割を担っている。そこで、本実践では、デジタル(ICT)とアナログ(人と人との関り)を併用した多様な方法での情報収集を検討し、実践することを目的として行った。

１　生徒の実態と教材について

本校の２年生を対象に行った『杉戸町への郷土愛調査』におけるアンケートからは、「杉戸町が好き」という質問に対し、好き・どちらかといえば好きと答えた生徒の割合は 78.2%であった。一方で、「杉戸町には魅力がある」という質問に対し、ある・どちらかといえばあると答えた生徒の割合は 31.2%であった。本校の生徒は、生まれ育ってきた地域に対する郷土愛はあるにも関わらず、地域の魅力に気付くことができていないのが現状である。１年次の総合的な学習の時間では、「杉戸町を調べよう」としてふるさとの調べ学習を行った。個人でテーマを設定し、一人一台配付されている ICT 端末を用いて、調べ学習を行い、プレゼンテーションソフトにまとめ、発表した。しかし、インターネットを活用した調べ学習では、集められる情報が限定的であり、杉戸町の隠れた魅力を発見するには情報量が不足していたと考えられる。

杉戸町は開宿 400 年の歴史があり、今なお宿場町としての景観が残っている建物もある。自然豊かでお米などの農業も盛んであり、杉戸町に本社・本店を置く企業もある。夏には流灯祭などのイベントや杉戸町推奨土産品、杉戸エール飯などの取り組みを行ったり、町に根差した昔ながらのお店も多く存在している。しかしながら、人口に目を向けると、年少人口と生産年齢人口が年々減少傾向にあり高齢者人口が増加している。そこで、観光大使となり、本校の生徒にとって生まれ育った杉戸町の魅力やよく知られていない隠れた魅力を再発見し、さらに地元に誇りや愛着を持てるようにしたい。

２　単元の目標

杉戸町観光大使となり、杉戸町のよさを社会に発信する活動を通して、生まれ育ってきた地域の自然や産業、歴史について理解し、社会にアピールできる杉戸町のよさを多面的に考え、工夫して社会に伝えようとすることができるようにする。

３　探究課題

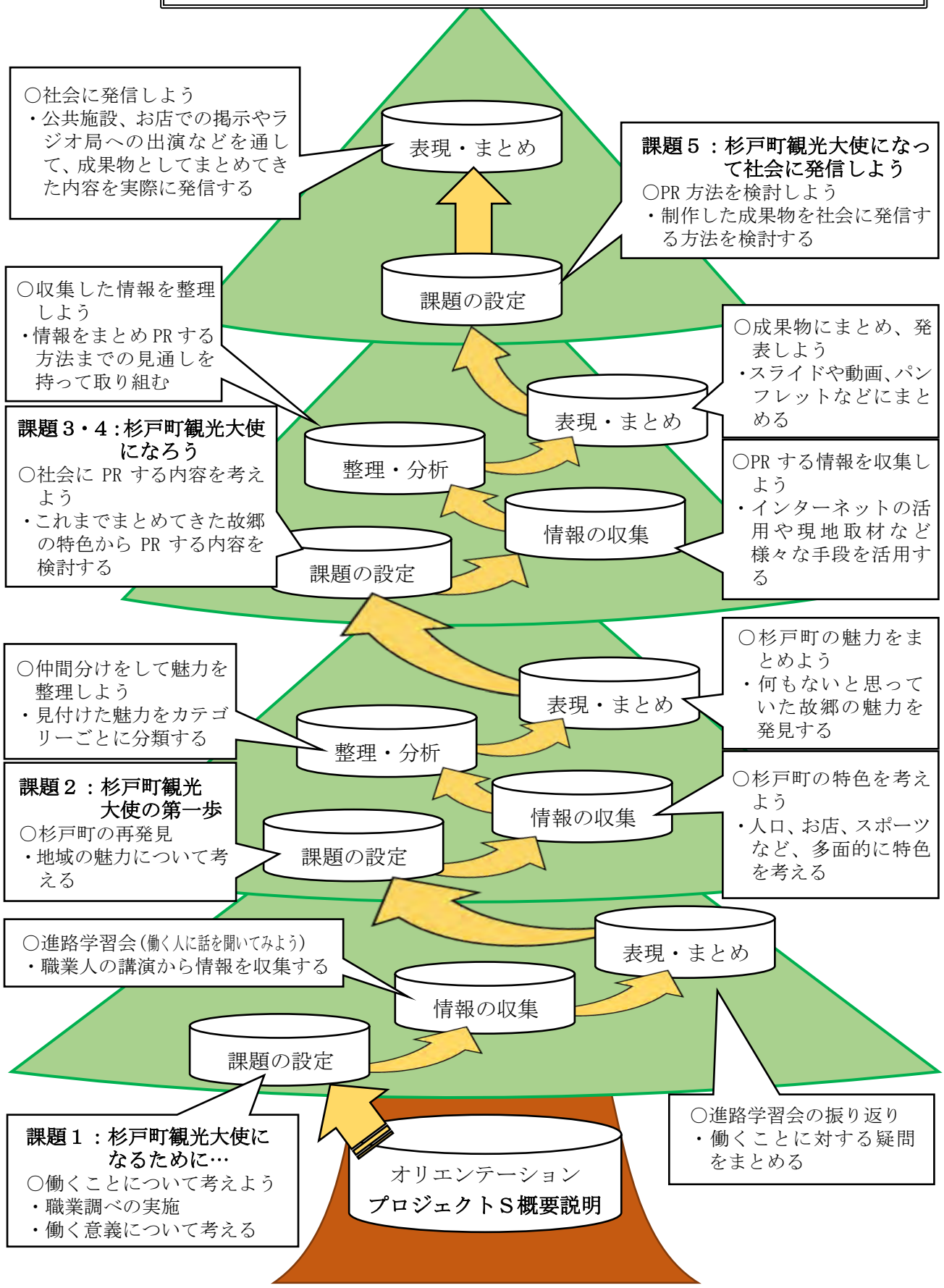
「杉戸町のよさを見いだし、地域を活性化させるために社会へ情報発信をする」

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 杉戸町の自然や産業、歴史について理解している。 ② ターゲットに合わせて適切な方法で発信しようとしている。 ③ 杉戸町の自然や産業、歴史についての理解は、生まれ育ってきた地域を PR するために解決すべき課題を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	① 発信したいターゲットを決め、PR したい内容を考え、確かな見通しをもって計画を立てている。 ② 課題の解決に必要な情報を、多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③ 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理・分類して考察している。 ④ ターゲットを意識し、効果的な方法で分かりやすく表現している。	① 地域の方との関りを通し、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ② 自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組もうとしている。 ③ 杉戸町の問題の解決に向け、自分ができることを考え、自分のこととして取り組もうとしている。

５　活動の流れ

杉戸町のよさを社会に発信する活動を通して、生まれ育った町の魅力に気付き、郷土愛を深めることができる。



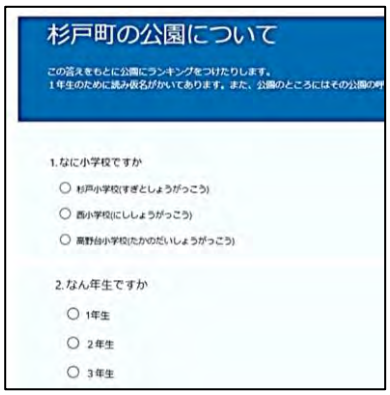
６　単元の指導計画・評価計画（４０時間扱い）

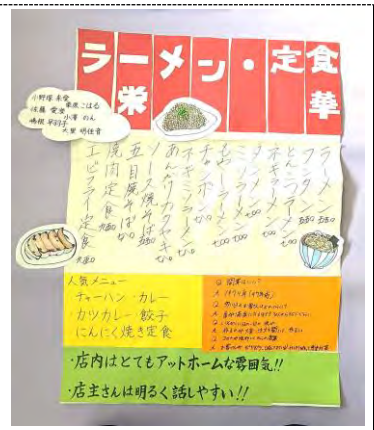
◎探究課題　「杉戸町のよさを見いだし、地域を活性化させるために社会へ情報発信をする」

○これまでの学習との関連
- １年　杉戸町を調べよう　（総合）
- ２年　健康と福祉・高校調べ　（総合）
- ２年　手紙の書き方　（国語）
- ２年　敬語　（国語）

探究の過程	○学習活動　（時間） ・予想される生徒の意識や姿	○指導上の留意点	評価規準 評価方法
課題の設定	○オリエンテーション（1） ・プロジェクトＳに関心を持つ 	○今後の総合的な学習の時間の進め方やねらいについて確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。 ○生徒が身近に感じ、興味を抱くように伝える。 ○観光大使としての仕事を紹介する。	態① 発言 記述
課題の設定	**課題 1:杉戸町観光大使になるために…** **～働くことについて考えよう～** ○チョコレートに関わる仕事とは…？（1） ・チョコレートをつくる人がいる。 ・販売する人やカカオ豆を生産する人もいる。	○簡単に購入できる身近なものにも多くの人が関わり、多くの職業が存在するということを確認する。 ○自分のなりたい職業とも繋げながら話し合いを行う。	態② 行動 発言 ワークシート
情報の収集	○進路学習会（働く人に話を聞いてみよう）（1）	○地域の方（お菓子屋さんと消防士）をお招きして職業観に関する講演をしていただく。 ○必要なことをメモしたり、質問を考えながら聞くように留意する。 	態① ワークシート
まとめ・表現	○進路学習会を振り返ろう（1）	○お話いただいた内容を振り返り、振り返りシートにまとめる。 ○講演いただいた方にお礼の手紙を作成する。	知① ワークシート
課題の設定	**課題 2:杉戸町観光大使の第一歩** **～杉戸町博士になろう～** ○杉戸町について再確認しよう（0.5） ・初めて知ったお店があった。 ・杉戸町に魅力があるのか分からない。	○１年生のときに行った「杉戸町を調べよう」で調べた内容をグループ、クラスで共有する。	知① 思④ 発表 行動 ワークシート
情報の収集	○杉戸町の特色を考えよう（1.5） ・杉戸町は○○なところです。 ・よく行くお店は○○です。 ・杉戸町にはこんな歴史があります。	○これまでの生活や前時の内容を参考に、杉戸町の名所や歴史など、知っていることを出し合う。 ○個人・小グループ・クラスの順に話し合いを広げていく。 ○必要に応じて、一人一台配付されているICT端末を使って調べる。 	知① 態② 発言 記述 行動 ワークシート

整理・分析	○杉戸町の特色についてカテゴリーごとに分類する。(1) ・観光スポットや飲食店、自然などに分けることができそう。	○「文化・歴史」「観光」「産業」「自然」「食」「その他」のカテゴリーに分類し、“イメージマップ”を活用してより意見を広げさせる。 ○情報を整理する場合は教育支援ソフトも活用する。 	思③ 態② 発言 ワークシート
まとめ・表現	○調べ、まとめた杉戸町の特色から杉戸町の魅力を考えよう。(1) ・意外とよいところがある。	○課題２に対する振り返りをアンケートフォームに回答して行う。	知① 態① 行動 ワークシート
課題の設定	**課題 3:杉戸町観光大使になろう** **～だれに何をどのようにPRする？～** ○これまでまとめた特色からPRする内容を決めよう。(2) ・食の中からラーメン特集をしよう。 ・SNS で話題になりそうなスポットをまとめよう。	○PRの内容は自由とする。 ○同じ興味関心を持つ生徒同士でグループを構成して、グループワークを行っていく。 	態③ ワークシート
情報の収集	○ターゲットを決めて、PRする内容を検討しよう。(4) ・小学生を対象としよう。 ・高齢者が住みやすくなる方法を考えよう。 ・家族でお出かけできるような内容にしよう。	○どんな人に向けて PR するのかより具体的にイメージを広げていく。 ○PR するターゲットに届くような方法や内容をグループで検討する。 ○インターネットを活用して、実際に、どのようなPRをしている自治体があるのかを調べ、PR 手法を調査する。 	思① 態② 行動 ワークシート
課題の設定	**課題 4:杉戸町観光大使になろう** **～PRする内容の情報を集め、まとめよう～** ○PR する内容の情報を集める手段を確認しよう。(2) ・インターネットを使って情報を集めよう。 ・インタビューをしてみたいな。 ・アンケートをとってみようかな。	○PR する内容をどのように情報収集するのかグループで検討する。 	思② 発言 ワークシート

	○情報収集の方法を学習しよう。(4)	○SNS の使い方や著作権についての学習をする。 ○アンケートフォームの作り方と集計方法を学習する。 ○インタビュー取材を行うためのアポイントメントの取り方や名刺交換などのビジネスマナーを学習する。 	思② 行動 発言
	○課外学習！取材先を決めよう(1) ・実際に行ってインタビューをしてみよう。 ・PR する場所の写真を撮ってこよう。	○インターネットや図書により調べた内容から、町の人の意見を反映させるための取材場所を設定する。	思① 発言 ワークシート
情報の収集	○実際にアポイントメントをとって取材をしよう。(3)  	○事業所の場合は、定休日や営業時間を考慮し、アポイントメントを取る時間に配慮する。 ○取材当日は交通安全、元気な挨拶に気をつける。 ○ICT 端末を活用して写真や取材メモをとる。 	知② 思② 態① 行動 発言 記述
整理・分析	○情報収集した内容を整理しよう。(2)	○インタビューの内容や調べた内容、写真や動画をまとめ、PR する内容を整理する。	思③ 成果物
まとめ・表現	○成果物を作成して杉戸町を PR しよう。(6) ・お店の商品を若者向けに冊子にしよう。 ・商品紹介用の PR 動画を作成しよう。 ・公園マップを作ろう。	○パンフレットや動画、模造紙、スライドなどどのようにまとめるのかを明確にし、ターゲットを意識してまとめる。 	思③ 思④ 態③ 行動 成果物

まとめ ・表現	○成果物発表会を行おう。(3)	○クラス内発表を実施し、代表作品を学年成果物発表会に選出する。 ○学年成果物発表会では、地域の方もお招きして講評をしていただく。  	思④ 発表 記述 ワークシート
課題の設定	**課題 5:杉戸町観光大使になろう** **～杉戸町 PR を社会に発信しよう～** ○作成した成果物を活用して社会に杉戸町 PR を発信する方法を考えよう(1) ・SNS を使うと良いのではないか。 ・お店に掲示してもらう。 ・メディアに取り上げてもらうと良いのではないか。	○どのように発信するかをグループで考える。 ○必要に応じて、インターネットを活用して、どのような発信の方法があるのか、調べる。	態① 態④ 発言 ワークシート
まとめ ・表現	○杉戸町PRを社会に発信する。(5)	○協力してくれた企業やお店にお礼状を作成する。 ○成果物をお送りする。 ○ラジオへの出演や校内放送を実施する。 ○駅前でチラシを配布する。 	思④ 行動 発言
まとめ ・表現	○これまでの活動を振り返る。(1) ・やってみて杉戸町の魅力が分かった。 ・PR する大変さと楽しさが分かった。	○アンケートフォームを活用して、これまでの学習を振り返り、自分自身の変容を確認する。	知③ 記述 ワークシート

7　活動の実際

（1）PR するターゲットを決め、内容を決定するまで…

● インターネットを活用した杉戸町の魅力発見

昨年度の調べ学習も活用しつつ、PR するという視点で新たに杉戸町の HP や各店舗の HP などを閲覧し、モチベーションとなる自らの興味関心と照らし合わせて調べ学習を実施した。

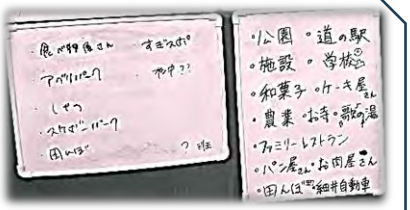
● 進路学習会における杉戸町の魅力発見

働くことの意義を地域のお店を代表する方を招待してご講演いただいた。非集合型の講演会として実施し、インターネットを活用して各クラスに配信した。

インターネットの情報やこれまでの生活、地域の人との関りから考えを広げた。

『個人→グループ』へと考えを広げ、協働して杉戸町の魅力を出し合った。出てきた意見は、教育支援ソフトを活用して、カテゴリー分けした。

PR するターゲットを意識して、PR したい内容の希望を取り、テーマ決定を行った。



★主なテーマ例【ターゲット】★

- スイーツバスターズ【中高生向け】
- おいでよ！杉戸町の二大公園【近くの市町村に住む人々向け】
- 食レポ、店レポ魅力&認知度 up【高校生、高齢者、主婦層向け】
- 東武動物公園に触れる～杉戸町の最高スポット～【杉戸町を知らない人向け】
- 子どもに人気なお菓子屋さん【小中学生向け】
- エール飯をエールしよう！【杉戸町に足を運んでくれた人向け】
- 杉戸の食巡り～おすすめにゅ～【家族層向け】
- Livin up "Takanodai"計画【高野台駅に訪れた人、駅を利用する人向け】

（2）観光大使としての情報収集 ～ICT (デジタル)編～

● アンケートフォームを活用した情報収集

・「杉戸町の公園について」のアンケートフォームを作成して、杉戸町内の小学校に依頼をし、アンケートへの回答をしてもらった。アンケートは、チェックボックスを使った内容と記述式の回答がある。集計は、回答結果をもとに ICT 端末を活用してまとめた。

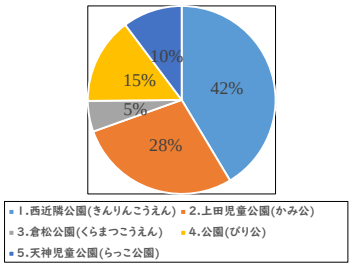


図. 小学生の一番好きな公園

● オンラインインタビューやメールによる情報収集

・杉戸町の福祉に関するテーマのグループは、事前にアポイントメントをとった上でオンラインを活用してインタビューを行った。

・杉戸の歴史について探っていたグループは、歴史に詳しい方にメールを使って質問を行った。いただいた返信に対して、追加で質問を行うなど、メールを活用したやり取りを実践した。

（3）観光大使としての情報収集 ～人との関り (アナログ)編～

● 実際に足を運んで行った現地取材の実施

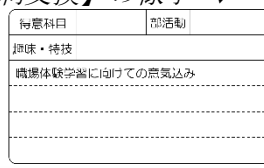
・本実践では、自分たちが主体的になって PR を行うために、取材のアポイントメント取りも生徒が自ら行った。アポイントメントをとるために、事前学習としてのマナーアップ講座を実施し、電話対応のロールプレイングの実施や名刺交換のやり方についての確認を行った。

▼ *取材先へのアポイントメントの様子* ▼

事前準備として、５Ｗ１Ｈを意識した電話原稿作りを行った。「礼儀正しく、丁寧に」を心掛け、ハキハキと受け答えることができるように、ロールプレイングでは、お互いを評価し合う時間を設けた。

▼ *マナーアップ講座【名刺交換】の様子* ▼

マナーアップ講座と題して、名刺交換の作法についての学習を行った。一人２枚の名刺を用意し、裏面には、図に示すようにプロフィールを手書きした。実際に訪問した際には、用意した名刺を渡した。



取 材 の 肝 ！

実際に見て・聞いて… 現地取材に行きました。

実際に、アポイントメントをとったお店や事業所に訪問しました。どの訪問先も温かく迎えてくださり、熱心にお話いただきました。訪問を通して、地域の方の温かさを感じました。訪問先には、ICT 端末を持参し、メモをとったり写真を撮ったり、動画の撮影を行ったりなど、様々な情報の蓄積を行いました。ケーキ屋さんに行ったグループは、お店の方に許可を頂き、お客さんにもインタビューをするなど工夫して取材を重ねました。

８　成果と課題

○ ICT を活用した情報収集では、アンケートフォームを作成することで、大量のデータを容易に収集し、簡単にまとめることができるため、効率よく情報収集をすることができた。

○ 一人一台の ICT 端末を活用することで、今まで課外活動として、実際に足を運ばなければいけなかったことが、オンライン通話やメールを使うことで容易に社会と繋がることができた。

○ 従来通りのアナログ手法に加え、ICT 端末で写真や動画の蓄積をすることで、より効果的な表現やまとめをすることができた。

● ICT の活用では、機能性も充実しているため、使い勝手が良いという反面、ICT 端末技能に個人差が大きいという課題がある。他教科との関りや学年に応じた段階的な指導が必要である。

● 生徒によってはインターネットの情報をそのまま活用してしまうため、ネットリテラシー等の計画的な指導が必要である。

★振り返りシートより【生徒の変容】★

・この活動を通して、私の中で眠っていた町の魅力・素晴らしさにたくさん気付くことが出来ました。

・最初は杉戸町の歴史なんて大したものではないだろうと思っていたが、これまで知らなかった杉戸町の歴史や、杉戸町の歴史の奥深さを知れて、嬉しかったし、誇りに思いました。

・実際に神社や寺になど様々な所に行って、杉戸町の観光についてもっと知りたいと思えました。

・杉戸町には、まだまだたくさんの場所や魅力があるということを知り、杉戸町に興味がわいた。わかっているだろうと思っていても深く調べれば調べるほど新しい発見があると思った。

・初めは何から始めたらいいかわからなかったけれど、取材やアポ取りをしていく中で友達との協力性や、社会との関わりが深まりました。

２　第３２回生活科・総合的な学習の時間教育研究発表会報告

（１）期　日　　令和５年８月２日（水）

（２）方　法　　オンライン開催

（３）指導者　　共栄大学教育学部　教授
小川　聖子　先生

（４）研究発表並びに研究協議

司会者：小野　玲美（さいたま・南浦和小）
古島　宏美（羽生・川俣小）
岸本　真希（鴻巣・屈巣小）
記録者：塚本　美家（東松山・新明小）
白石　博美（小鹿野・小鹿野小）

①気付きを深める生活科学習指導

提案者　　熊谷市立妻沼南小学校　小島　千佳

②「心と体が動き出す」子供のための授業づくり
～子供とこどもの関わりを通して～

提案者　　松伏町立松伏第二小学校　田村　浩基

③総合的な学習の時間の単元開発を支えるクラウド環境の構築

提案者　　戸田市立戸田第二小学校　村田　貴彦

気付きを深める生活科学習指導

熊谷市立妻沼南小学校　小島千佳

１　主題設定の理由

学習指導要領では、「生活科における気付きは、諸感覚を通して自覚された個別の事実であるとともに、それらが相互に関連付けられたり、既存の経験などと組み合わされたりして、各教科等の学習や実生活の中で生きて働くものとなることを目指している。」と明記されている。そこで、秋の魅力に気付かせ、自然の中で、一人一人の思いや願い、気付きを生かした多様な遊びを行っていく。そして、友達と一緒に遊びを考えたり工夫したりして、楽しみながら遊びを作り出すことができるようにしていきたいと思い、本主題を設定した。

２　実践について

単元「たのしい　あき　いっぱい」

【第一次】あきのおたからさがしをしよう

→校庭と神社であきのおたから探しをする。

【第二次】あきのおたからであそぼう

→図工と教科横断的な学習を行いながら、サツマイモのつる、どんぐり、まつぼっくり、くっつき虫、落ち葉のそれぞれを使った遊びを考える。

【第三次】あきのおたからでもっとたのしもう

→興味グループに分け、友達と協力しながら秋のおたからを使ってあきにしか遊ぶことのできないおもちゃを作り、楽しむ。

【第四次】ともだちといっしょにあそぼう

→友達と作ったおもちゃで楽しみながら、自分の良さや友達の良さに気付き、認め合う。

主題に迫るための手立て

(1)学習活動の工夫

①豊富な物的資源　②子供の意欲に繋がる声掛け

③教科横断的な学習

(2)場づくりの工夫

①学習の場の設定　②友達の思いや考えが分かる掲示物

(3)振り返り活動の充実

①振り返りカードの工夫　②気付きの観点の提示　③ICT の活用

３　成果と課題（○成果　▲課題）

○振り返りから授業を行っていくにつれて気付きが高まったことが伺えた。また、試しながら作成する等、自分の願いを実現できるように活動するという姿から、子供たちの確実な成長を感じた。

○準備をしっかり行うことで、子供たちが意欲的に活動することができた。特に第三次では、子供たちが拾った秋のおたから以外も用意することで、特に意欲的に活動できていた。

○『あきのおたからコーナー』を設け、３０種類の秋のおたからを用意し、単元の間は飾っておいた。子供たちが授業の他にも集めてきたり、触って楽しんでいたり、秋の魅力を味わおうとしている姿が見られた。

○小単元の終わりに、学習の内容をまとめたものを掲示した。振り返りカードやつぶやきから気付きを読みとり、書き込んだり貼ったりした。次の小単元では、内容を生かしている児童がいた。気付きの高まりが感じられた。

▲更なる場の設定の方法があった。

▲一定の秋のおたからに偏ってしまっていたところもあるので、他のおたからの魅力にも気付き、生かしておもちゃが作れるような声掛けが行えれば良かった。

「心と体が動き出す」子供のための授業づくり
～子供とこどもの関わりを通して～

松伏町立松伏第二小学校　田村　浩基

１　主題設定の理由

「総合的な学習の時間で身に付く力とは何か」授業者として、このことを明らかにすることが重要であると考える。本研究のもとになった単元は子供（本校の３年生）とこども（近くのこども園の年長さん）の交流活動である。１年間の中で何度も交流を繰り返す中で子供達は、「他者と協力する力」「自己理解する力」「目標を達成するために粘り強くやりぬく力」など、課題解決に必要な多様な力を身に付けた。これらの力を身に付ける過程で子供達は、「園児にどうなってほしいのか」という相手意識と目的意識をもち、心（課題解決に対する思いや願い）と体（思いや願い実現するための行動）を動かし続けてきた。このような学習過程の中でこそ、子供達一人一人がよりよい社会を創る人財として活躍していくために必要な力を身に付けていくことができると考え、本主題を設定した。

２　実践について

＜意識したことと実際の様子＞

① やることや、やり方などを教師が決めすぎず、子供と決めるようにする。

② 友達、教師、保護者、地域の方々、外部機関等、たくさんの人たちと関わりながら課題解決をする。

③ 一人一人全員の子供が必ず自分の意見や考えをもって話し合いや活動に取り組むことができるようにする。（必ず考えを書いてから話し合うようにした。）

④ ①～③を意識して、「話し合う→やってみる→話し合う→やってみる」を繰り返し続ける。

第１回交流会（１学期）

第２回交流会（２学期）

第３回交流会（３学期）

男子児童Ｏ．Ｉの振り返りの変容

第１回「景品をたくさん作った。次はプールで遊びたい」

第２回「園児の笑顔をもっとみたい。人を喜ばせることを学んだ。

第３回「相手を喜ばせたい気持ちがお互いを幸せにすることを学んだ。どんなに大きくなっても忘れずに生きたい。

３　成果と課題（○成果▲課題）

○１年間学習対象との関わりを繰り返す事で、加速度的に目的意識と相手意識が育っていった。

○総合の授業を通して自己理解力や他者との協働など非認知能力に繋がる力が身に付いた。

▲３年生の総合は、自己意識を大切にする生活科との接続を意識した指導が必要。（自己意識が強い１学期から相手意識を強く指導しすぎない。）自己意識と相手意識は同じくらい大切に指導する。

総合的な学習の時間の単元開発を支えるクラウド環境の構築

戸田市立戸田第二小学校　　村田　貴彦

１　主題設定の理由

探究的な学びが流行している今日において、総合的な学習（探究）の時間がもつ価値は注目を受けている。一方で、単元開発にかかる時間や教師らの協働にかかる業務上の負担についても多くの指摘がある。これらの課題に対して GIGA スクール構想下で整備されたクラウドネットワークを活用するもとで、総合的な学習の時間のもつ教育的価値を保ちつつ、業務改善が図れるのではないかと考え主題を設定した。

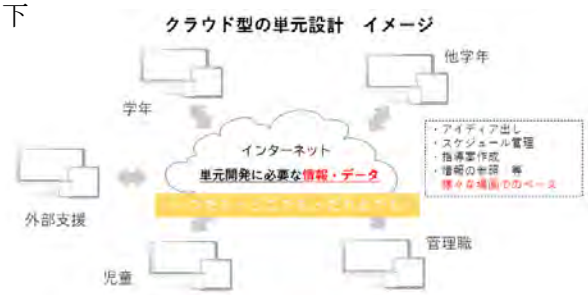
２　実践について

大きく３つの手立てを考えクラウド環境の設計を考えた。

（１）単元開発に関わる事態調査

①文献調査：文部科学省の資料からクラウド環境下で効果を発揮する場面を抽出した。

②実態調査：所属校の課題を抽出した。



（２）クラウド基盤による単元開発環境の構築

①要件整理

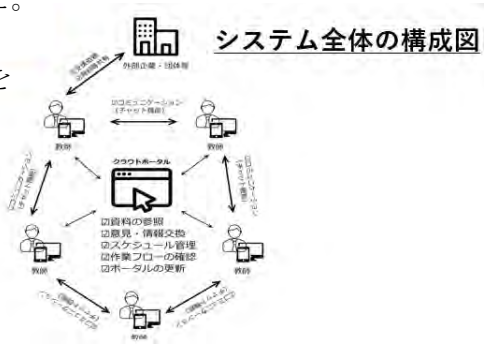
システムに必要となる要件を整理した。

②クラウド機能分析

要件に対応する Google Workspace のアプリを配列した。

③単元開発環境の構築

システム全体の構成を図式化することで活用イメージを湧かせた。



（３）単元開発支援ポータルの構築

①ポータルの設計・構築

Google サイトを活用し、ポータルの設計をした。

（４）授業内での児童の活用

総合的な学習の時間の内で児童らがクラウドを活用した結果、情報のやり取りの高速化、協働編集による作業の効率化、情報収集や調査活動が児童主体で行われるなどの学習上の効果を感じた。

３　成果と課題（〇成果　▲課題）

〇効率性と利便性が高まった。授業計画の作成、編集、共有がスムーズになり、教師間の協力体制が容易になった。リモートでもコミュニケーションが進み、限りある時間の中で内容を凝縮して作業ができるようになった。

〇リソースの共有が容易になった。文章、動画、音楽、画像が簡単に共有できるため、必要な情報を手に入れる際に簡単にアクセスできるようになった。

▲クラウド環境を使いこなすために、研修の機会を確保することが必要。全ての教員がクラウド環境に慣れているわけではない（オンプレミス型に慣れている）ので、技術的なサポートが必要となる。教師一人一人の躓きを確認して、適切なサポートを入れていく必要がある。

３　授業研究委嘱校報告

鳩山町立亀井小学校

１　日　　時　　令和５年１０月１８日（水）１３：４０～１４：２５
２　授　業　者　　第４学年　　豊田　淳喜　教諭
３　単　元　名　　「ふるさと発見隊～亀井の伝統～」
４　授業の概要

本単元は、地域の文化財について調べたり体験したりする活動を通して、そのよさや課題に気付き、継承に向けて、地域の一員としてできることを考えることができるようにすることをねらいとしている。本単元で取り扱う文化財であるが、その存在を知らない児童も多く、近年の少子化の影響から後継者不足にも悩まされている。

児童は本時までに、文化財の保存に注力している方々の話を聞いたり、演奏や踊りの指導を受けたりするなどして関わってきた。そのような活動を通して、地域にはそこに住む人にとって大切にされてきた文化財があることに気付いた。あわせて、文化財の担い手が減少していることが地域にとって大きな課題であることにも気付いた。そして、児童の中には、地域にとって大切なものを守らなければならいという意識が生まれ、そのために自分たちには何ができるのかを考え、活動してきた。

本時では、文化財の面白さを広めるための動画を作成し、見てもらった感想をもとに、自分たちの演奏をよりよくするための改善方法について話し合った。ＰＭＩを活用して、改善点を見いだし、ピラミッドチャートを活用して、より効果的な改善方法を焦点化する話し合いを行った。その際、常に「文化財の面白さを伝えられているのかどうか」という視点をもって話し合えるように、発問したり、問い返したりするなどの手立てを講じた。

５　授業を振り返って

○思考ツールの活用について

本時では、ＰＭＩとピラミッドチャートの２つの思考ツールを活用した。児童は場面に応じてツールを選択、活用することができるようになってきている。ピラミッドチャートを活用する場面では、話し合いをしながら、より効果的な改善点についてスムーズに焦点化することができていた。しかし、ＰＭＩを活用した場面では、Ｐ(プラス)とＭ(マイナス)から改善点を見いだすというよりは、動画を見た感想から改善点を見いだしていたグループが多く、思考ツールの活用法について、さらに考えていく必要がある。

○話し合い活動について

動画を見た人の感想や、導入のテキストマイニングから、すでに改善点が導き出されており、ピラミッドチャートを活用して焦点化する必要が無いくらい、児童の中で「笑顔」をキーワードに話し合いが進んでいた。そのため、話し合いに深まりを生み出すことができなかった。

○ＩＣＴの活用について

導入の場面では、テキストマイニングを使って、本時の課題を児童と一緒に考え出すことができた。また、タブレット端末上で、動画や感想を再度確認したり、思考ツールを活用したりすることで、話し合い活動が効果的かつ活発に進んでいた。ただし、中には画面に集中してしまう児童もおり、ＩＣＴの活用については今後も考えていかなければならない。

６　指導講評（淑徳大学教育学部こども教育学科教授　岡野雅一先生）

○総合的な学習の時間の学習は、「答えのない課題に対して多様な他者と協働しながら、目的に応じた納得解を見いだす」強みをもっている。その強みを生かすために、手に入れた情報（知識）をどのように活用するかが重要。また総合的な学習の時間では・多様な情報を活用して、協働的に・異なる視点から考え、協働的に・力を合わせたり交流したりして、協働的に・主体的かつ協働的に学ぶことが重要である。

○１時間を通して教師が話しすぎず、児童の言葉や思いを生かしながら授業を進めていた。また、タブレットの活用も適切で、タブレット上の感想を常に見返して考えるなど、児童も道具として使いこなすことができていた。話し合いの場面では、常に目的に立ち返らせることで、児童の考えがぶれずに話し合うことができていた。感情面や見た目のことだけではなく、方法論についての話し合いができるとさらによかった。

○思考ツールの活用は、低学年のうちから始められるとよい。学年毎に活用可能な教科、場面を洗い出し、活用可能な思考ツールを設定するとよい。思考ツールを活用することで、考えることの訓練になり、学校全体で取り組むことが重要である。

久喜市立清久小学校

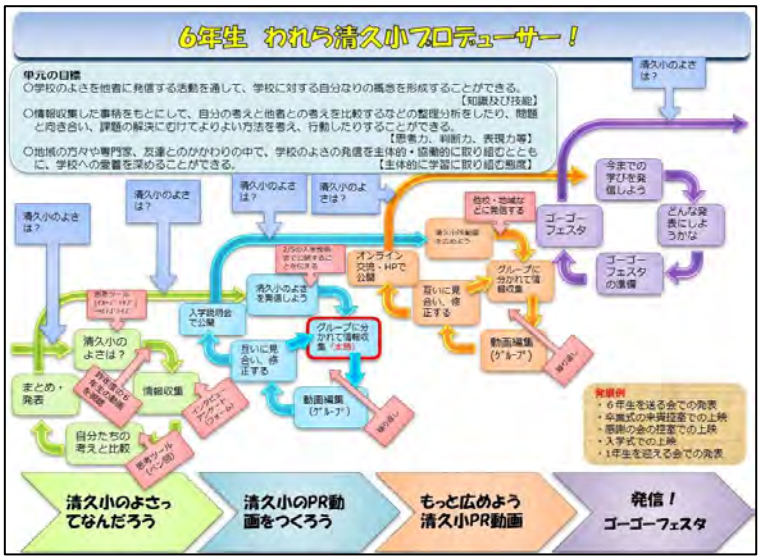
1　日　　時　令和５年１１月６日（月）１３：３５～１４：２０

2　授　業　者　第６学年　井上　優志　教諭

3　単　元　名　「われら清久小プロデューサー！」

4　授業の概要

本単元では、自分達が毎日通っている学校のよさを、PR 動画にする学習を行う。自分達の学校の PR 動画を制作することで、児童にとって主体的・協働的な学習や学び合いを促し、価値ある知識の獲得と課題解決能力を高めることができると考えた。



単元を進めるにあたって、テレビ局でカメラマンを務める方を GT とし、複数回にわたり授業に入っていただき、専門的な知識やアドバイスをもらった。

また、学習の連続性を意識した環境設定や振り返りの工夫として、以下のことを意識した授業を展開した。

（１）単元を通して一貫した発問

「清久小のよさとは何か」を小単元の終盤で何度も問い直すことで、自分の考えの変容や変わらない考え・思いがあることに気付き、清久小に愛着がもてるようにする。

（２）他者参照可能な振り返りシート

Google スプレッドシートを活用し、他の友達の振り返りを参照できる振り返りシートを作成した。友達の振り返りを参照することで、自分の振り返りに対する気付きや新たな発見、次時の学習への見通しをもちやすくする。

今回の学習のふり返り（○がっち・わからなかった・できた・できがっち・よくがっち）	次回の学習に向けて（やってみたい・生かしてみたい・試してみたい）	ワクワクレベル	NGH（ネクストゴーゴーヒント）
原稿が完成しました。動画に必要な素材を集めていきたいです。	素材を集めるために計画を立てて必要な素材を集めたいです。	3	素材
今日は、1分以内で原稿を作ることをめあてにして、原稿づくりをしました。これからは、CMに使う画面などの写真を取っていきたいと思いました。	次回は、CMで使う写真を取っていきたいと思いました。	4	素材集め
原稿を改善しました。他の班との繋がりができたので、そこと一緒に原稿作りをすることができました。1分前後に収められるようにしたいです。	次回は、原稿がもう少しで完成するので、完成させて、必要な材料などの計画を立てたいです。	4	松本さんのアドバイス
今日は、色々良くして、原稿が作れました	次回の学習では、早速動画の素材を取っていき、完成に近づきたいです。	○	原稿を完成させる
原稿が順調に進んでいてもう終わりそうなので安心しました。1分内で動画作れるかが心配です。CMに向けて頑張りたいです。1年生が清久小のことを知ってもらいたいので頑張りたいです。	次回では動画の計画を立てていきたいです。	○	動画
今回は、歴史班とのつながりも意識して、原稿づくりをよく進められたと思います。	実際に原稿を読んでみると1分15秒だったので、もう少し短縮できるところは、短くして余裕を持ってわかりやすい動画のいち部を丁寧に作って行きたいです。	○	一分内　テロップ

▲他者参照可能な振り返りシート

（３）NGH（ネクストゴーゴーヒント）

振り返りシートの中で、NGH（ネクストゴーゴーヒント）を記述する欄を設けた。これは授業の導入で「本時の学習で課題につながりそうなキーワード」を前時の振り返りから見つけて記述させ、AI テキストマイニングを活用することで、本時の課題につなげるものである。さらに、本時の課題を全員で立てた後、自分の課題を本時の振り返りシートの冒頭に記述させ、本時の学びや活動を自分事にしていく。

▲AI テキストマイニングにより
ワードクラウド化された NGH

5　指導講評（元文科省主任視学官　嶋野　道弘　先生）

○探究する単元のデザインとマネジメントができている。探究の単元を構成している個々の役割と関連を設計し、実践を通して、評価・改善・調整する不断の営みが見える。

○振り返りを大切にしているのがよい。振り返りとは、各自の学びの捉え直し、味わい直しであり、自分の学びや変容の自覚をするもの。基本的に教師は観点を設定せず、文脈のある文章で書くようにするとよい（自己省察と自己調整は一体的）。そのために、「自分」を主語にして書くことがよい。

深谷市立上柴西小学校

1　日　　時　　令和５年１１月２４日（金）１３：５５～１４：３５

2　授　業　者　　第２学年　飯塚　真未　教諭

3　単　元　名　　「つながる　広がる　わたしの生活　～町のすてきニュースを伝えよう～」

4　授業の概要

本単元は、地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとすることをねらいとしている。そこで、自分たちが町探検で得た情報や気付きを友達から町の人々へと伝える対象を広げ、町の人に伝えたり、互いに交流したりする活動へとつなげていくことを最終的なゴールとして設定した。

また、話し手と聞き手が一対一になり、双方の活動を充実させることで、身近な人々と関わることのよさや楽しさを実感できるようにしようと考えた。

5　授業を振り返って

○今までの学習の流れや、自分たちのオリジナルの町探検のマップを掲示しておくことで、一人一人の気付きを全体で共有することができ、マップを見ながら、次の探検の際に何を聞くのか、前回を振り返りながら考えたり、今までの探検と比較しながら振り返りを記述したりすることができた。

○実際に友達に「町のすてきニュース」を伝える活動では、ICT や具体物、ペープサートなどの様々な表現方法で「町のすてきニュース」を友達に伝えていくことができた。ICT の良さを生かしつつ、ICT では伝えきれない所などは、模型を作って一人一人が考えた伝え方を工夫していた。

○話し手がテレビのニュースキャスターのようにマイクを使って話すことで、子供たちの「伝えたい」という意識も高まったり、伝えたいことをより相手に伝えるために指をさしながら説明したりする様子が多く見られた。

○振り返りで「町のすてきニュース」をもっとたくさんの人に「伝えたい。」という次時の活動につながる発言が多く出ていた。

6　指導講評（深谷市立上柴東小学校　教頭　境野　仁　先生）

○生活科の授業で大切なことは「子供とともに自分（教師）も楽しむ」ということである。

○教科書と子供の願いの「ずれ」を大切にする。

○具体的な活動や体験から生まれる子供たちの願いや気付きを授業に活かす。

○情報が双方向に行き来することが大切。感情の交流も行われることを重視する。

○「ニュース」を伝え合う活動で具体物を取り入れることは有効的だった。

○話し手と聞き手を双方交流にするためには、選択させるとよかったのではないか。

○気付きを深めるには、教師が切り返しをすると良い。「どこが？」「何が？」気付きを高める切り返しを意図的に取り入れる。

○まとめは子供に聞くと良いのではないか。聞きたい時にはピンポイントで聞き、最後は大きくまとめられると良い。

４　令和５年度講演会記録

演題「生活科と総合的な学習の時間のよりよい実施に向けて」

文部科学省　初等中等教育局 教育課程課　教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター　教育課程調査官

齊藤　博伸先生

１．生活科改訂の趣旨及び要点・幼児教育と小学校教育のつながり

生活科改訂の趣旨及び要点（解説生活編Ｐ５～６）

中央教育審議会答申において、学習指導要領等改訂の基本的な方向性が示されるとともに、各教科等における改訂の具体的な方向性も示された。今回の生活科の改訂は、これらを踏まえて行われたものである。

生活科は、児童の生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験を重視し、具体的な活動や体験の中で様々な気付きを得て、自立への基礎を養うことをねらいにしてきた。平成２０年改訂の学習指導要領では、活動や体験を一層重視するとともに、気付きの質を高めること、幼児期の教育との連携を図ることなどについて充実を図った。

その成果として、各小学校においては、身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたこと･楽しかったことなどを表現する活動を大切にする学習活動が行われており、言葉と体験を重視した改訂の趣旨がおおむね反映されているものと考えることができる。

一方で、更なる充実を図ることが期待されることとして以下の点が示された。

・活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視すること。「活動あって学びなし」との批判があるように、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。

・幼児期の教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する低学年教育として滑らかに連続、発展させること。幼児期に育成された資質・能力と小学校低学年で育成する資質・能力とのつながりを明確にし、そこでの生活科の役割を考える必要がある。

・ 幼児期の教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある。

・ 社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科等への接続を明確にすること。単に中学年の学習内容の前倒しにならないよう留意しつつ、育成を目指す資質・能力や「見方・考え方」のつながりを検討することが必要である。

スタートカリキュラムとは・・・

生活科を中心として学校全体で取り組むカリキュラムのこと。

例えば…１年生での取り組み

・友達と仲良くする⇒【仲良しタイム】

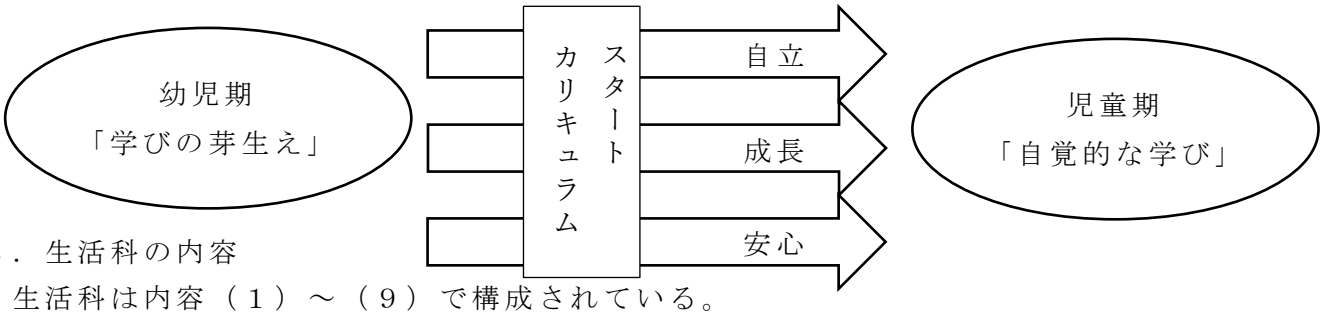
・興味を持ったことをどんどんやっていく⇒【わくわくタイム】

・教科の学びに直接つながっていく⇒【ぐんぐんタイム】

スタートカリキュラムを実施していくときには、「全教職員」「毎年見直し」「次年度に繋げていく」「保護者の理解」「幼稚園、認定こども園、保育所に見てもらい、改善のための協議を行う」ことがスタートカリキュラムのアップデートになる。

また、黒板に学校の日課やアナログ時計を示しながら掲示し、学校生活はある程度の時間の区切りがあることに慣れていくことができる。さらに、子供たちの問いをあえてカードに書き掲示し、音声言語を文字言語として残すことにより、子供たちは問いを自覚することができる。そこで教師が「どうしたい？」「園ではどうだった？」「どうするの？」と発問することで、子供たちが手立てを考え、主体性がさらに伸びていくことができる。

今回の改訂では、幼稚園教育要領にも小学校学習指導要領にも幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりに連携・接続を図っていくことが示されている。特に小学校では入学当初においては生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定などをして、指導の工夫や指導計画の作成を行っていく。そこで大切になるのが資質・能力をつないでいくためには、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を何かを理解することである。



２．生活科の内容

生活科は内容（１）～（９）で構成されている。

例えば、遊びの単元である（６）は以下の通りに示されている。

内容（６） ① 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、②遊びや遊びに使う物を工夫して作ることができ、③その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、④みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

①…学習対象や学習活動　②…思考力、判断力、表現力等の基礎

③…知識及び技能の基礎　④…学びに向かう力、人間性等

一文の中に①～④の要素が入るように統一された。

例えば、学習対象を「動くおもちゃ」とした単元の場合、単元目標は以下のように作られる。

単元の目標 ①身近にあるものを使って、動くおもちゃをつくる活動を通して、②よりよく動くように改善したり、もっと楽しくなるように遊び方やルールを変えたりするなどの工夫をし、③遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、④みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。

①…活動（～を通して）　②…思考（～について考えることができ）
③…気付き（～に気付き、～が分かり）　④…態度（～したりしようとする）

このときに内容（６）のように４つの要素が入っていることがポイントである。このように具体的な体験や活動を通して、資質・能力の３つの柱を一体的に育てていくことが生活科の学習の単元には求められる。このようなことを意識しながら小単元ごと評価規準を作成していく。

３．総合的な学習の時間における単元づくり・授業づくり・学習評価

総合的な学習の時間の単元づくり・授業づくりについては、学校として既に十分な実践経験が蓄積され、毎年実施する価値のある単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の児童・生徒の実態に即して単元づくりを行う必要がある。

大田区の道塚小学校や群馬県の榛東中学校の実践からは、児童・生徒が目的意識を持ってしっかりと取り組んでいることがわかる。この姿を実現していくためには、次のようなポイントをおさえて、単元づくりをしていくようにしたい。

（１）単元作成の流れ

Ａ　全体計画・年間指導計画を踏まえる

Ｂ　児童・生徒の興味・関心、教師の意図、教材の特性から中心となる活動を思い描く

①児童の興味・関心

児童にとって切実な，関心や疑問を出発点とすることで、児童の主体的な活動が保障できる。

②教師の意図

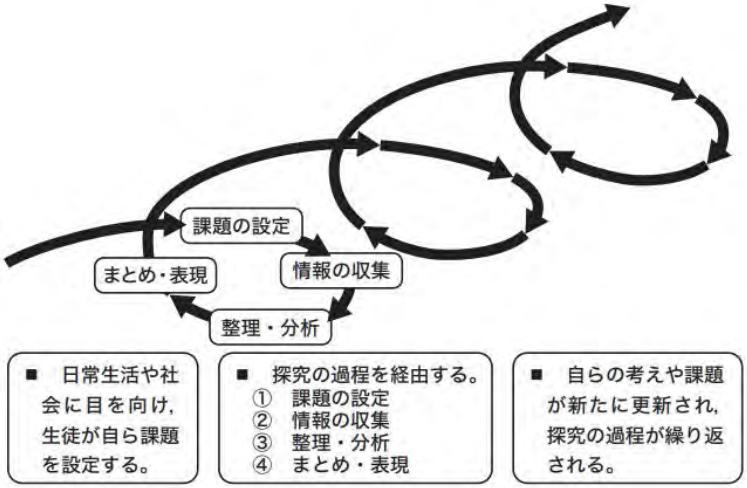
教師の願いを出発点とすることで、探究課題を通してどのようなことを学ばせたいのか、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を明確にした単元構想が可能となる。

③教材の特性

教材（学習材）とは，児童の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。教材の特性を出発点とすることで、どのような課題の解決や探究的な学習活動を行うことができるか，明確に見通すことができる。その際、横断的・総合的な学習になるように意識することが求められる。

C　探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）が連続発展するように学習活動を並べる。その「小単元１」「小単元２」「小単元３」のイメージが具体的であればあるほど、その単元が発展的に繰り返され、「問いが連続していく」「問いが更新されていく」ことにつながる。



D　単元構想の実現が可能かどうか検討する

自然な流れに沿って展開できるかを検討する。また、授業時数・学習環境・学習形態・指導体制・各教科等との関連など多様な視点から、実現可能かを吟味する。

E　単元計画としての学習指導案を書き出す

単元の計画を具体的に表現するためには、以下のような構成要素が考えられる。

○単元名○教師の願い ○単元目標○地域や学校の特色 ○児童の実態○社会の要請 ○目標を実現するにふさわしい探究課題○学校研究課題との関連 ○単元において育成を目指す資質・能力○各教科等との関連 ○教材について○単元の評価規準 ○指導計画・評価計画　　など

F　単元の実践

丁寧に単元づくりを行っても児童・生徒の活動は教師の想定通りにならない場合もある。児童・生徒の動きに応じて計画を柔軟に修正しつつ、学びを生み出そうとする教師の構えが重要である。

G　指導計画の評価と改善

単元の実践を振り返り、単元計画を見直すとともに、次年度の全体計画や年間指導計画の改善に役立てる。

５　事業報告

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

月	令和５年度　　事　業　計　画
４月	７日（金）　○　事務局幹事打合せ会 於：Ｚｏｏｍ　１６時００分～１６時３０分
５月	１８日（木）　○　常任理事会（会長・副会長・常任理事・幹事） 於：Ｚｏｏｍ　１４時００分～１６時００分
６月	１４日（水）　○　講演会及び総会 於：Ｚｏｏｍ　１４時００分～１６時３０分 演題「**生活科と総合的な学習の時間のよりよい実施に向けて**」 講師　文部科学省 初等中等教育局 教育課程課　　教科調査官 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 齋藤　博伸　先生
７月	１２日（水）　○　第１回　指導法研究委員会 於：Ｚｏｏｍ　１４時００分～１６時００分 ・委員の委嘱　・指導事例集の形式　・執筆分担
８月	２日（水）　○　研究発表会 於：Ｚｏｏｍ　１３時１５分～１６時００分 （生活）熊谷市立妻沼南小学校　教諭 小島　千佳　先生 （総合）松伏町立松伏第二小学校 教諭 田村　浩基　先生 （総合）戸田市立戸田第二小学校 教諭 村田　貴彦　先生 ７日（月）　○　第２回　指導法研究委員会 於：Ｚｏｏｍ　９時００分～１２時００分 ・執筆内容の再検討
10月	１８日（水）　○　授業研究委嘱校発表会（総合的な学習の時間） 於：鳩山町立亀井小学校 ２７日（金）　○　第２６回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 埼玉大会プレ発表 於：熊谷市立新堀小学校 ３１日（火）　○　第３回　指導法研究委員会 於：Ｚｏｏｍ　１４時００分～１６時００分 ・執筆内容の再検討　・原稿締め切り１２月上旬
11月	６日（月）　○　授業研究委嘱校発表会（総合的な学習の時間） 於：久喜市立清久小学校 １０日（木）　○　全国大会（京都） １１日（金）　京都テルサ シンポジウム・記念講演・全国理事会 京都市立京極小学校　京都市立待鳳小学校 京都市立御所南小学校 １７日（金）　第２５回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 群馬大会 オンライン開催　シンポジウム・記念講演 課題別分科会（YouTube配信） ２４日（金）　○　授業研究委嘱校発表会（生活科） 於：深谷市立上柴西小学校
12月	上旬　○　研究集録「生活・総合」作成 ・会議は開かず郵送等での連絡調整により、研究集録を作成する。
２月	１６日（金）　○　常任理事会（会長・副会長・常任理事・幹事） 於：Ｚｏｏｍ　１４時００分～１６時３０分
３月	中旬　○　事務局幹事打合せ会 於：Ｚｏｏｍ　１５時００分～１６時００分

６　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会会則

第一章　　名称・事務局・会員

第一条　本会は埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会と称し、事務局を会長指定の学校に置く。

第二条　本会は埼玉県内小学校生活科関係教員・小中学校総合的な学習の時間関係教員を会員とし、埼玉大学生活科・総合的な学習の時間担当教員、県・市町村教育委員会生活科・総合的な学習の時間担当指導主事を特別会員とすることができる。

第二章　　目的・事業

第三条　本会は生活科・総合的な学習の時間教育の振興を図ることを目的とする。

第四条　本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

１．生活科・総合的な学習の時間教育に関する研究・調査
２．会員相互の研究発表・指導法の研究
３．研究成果・資料等の刊行
４．その他必要な事業

第三章　　組織・役員

第五条　本会に次の役員を置く。

１．会　　長　　一名
２．副　会　長　　若干名
３．理　　事　　若干名
４．常　任　理　事　　若干名
５．監　　事　　二名
６．幹　　事　　若干名

第六条　役員は次の方法によって選出する。

１．会長は、理事会において選出する。
２．副会長は、理事会において、東西南北の各地区、さいたま市よりそれぞれ若干名を選出する。
東西南北の地区については、東部（北埼玉・埼葛）、西部（比企・入間）南部（北足立南部・北部）、北部（秩父・児玉・大里）に分けるものとする。
３．理事は、各地域教育研究団体生活科研究部・総合的な学習の時間研究部小、中学校より若干名をもってこれにあてる。
４．常任理事は、各教育事務所管内より各一名又は、二名を選出する。但し、理事会の承認を得て地域の実情を考慮し、その人数を増すことができる。
５．監事は、総会において選出する。
６．幹事は、会長が委嘱する。

第七条　役員は次の職務を行う。

１．会長は、本会を代表して会務を総轄する。
２．副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行する。

３．理事は、理事会を構成し会務を審議する。
４．常任理事は、常任理事会を構成し会務を執行する。
５．監事は、本会の会計を監査する。
６．幹事は、本会の庶務会計にあたる。

第八条　役員の任期は一年とする。但し、再任することもできる。
補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

第九条　本会に顧問及び参与を置くことができる。顧問及び参与は、本会に功労のあった者又は生活科・総合的な学習の時間教育について学識経験のある者について理事会が推薦し、会長が委嘱する。

第四章　会議

第十条　本会の会議は、総会・理事会・常任理事会・その他とし、原則として、会長が招集する。

第十一条　総会は、毎年一回開催し、次の事項を行う。但し、理事会をもって、総会にかえることができる。また、必要に応じて、臨時総会を開催することができる。
１．会務および決算の報告および承認
２．事業計画ならびに予算の承認
３．監事の選出
４．会則の変更
５．役員の承認
総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数の時は議長がこれを決する。

第十二条　理事会は、会長・副会長・常任理事・理事・幹事で構成し、会務を審議する。但し、会長の委嘱を受けた特別会員を加えることができる。

第十三条　常任理事会は、会長・副会長・常任理事・幹事で構成し、会務の執行、事業の企画、予算案の編成をする。但し、会長の委嘱を受けた特別会員を加えることができる。

第五章　会計

第十四条　本会の経費は会費・補助金及び寄付金などをもってあてる。

第十五条　本会の会計年度は四月一日から翌年三月三十一日までとする。

付　則

第十六条　本会則の変更は、総会の議決による。

第十七条　本会則は平成二年十二月七日よりこれを実施する。

（平成３年６月５日　一部変更）
（平成７年６月13日　一部変更）
（平成９年６月11日　一部変更）
（平成11年６月16日　一部変更）
（平成13年６月22日　一部変更）
（平成16年６月22日　一部変更）
（平成19年６月19日　一部変更）
（令和５年６月14日　一部変更）

あとがき

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会
副会長　萩原　美樹

研究収録「生活・総合」第３４号が、本会各地区の先生方の御協力と御尽力をいただき発行できましたことに、心より感謝を申し上げます。

令和５年度は、新型コロナウイルス感染症が第５類に移行し、これまで制限されていた教育活動が大きく動き始め、子供たちの生活にも彩が戻ってまいりました。コロナ禍で得た知識や経験を活かし､工夫して実践を積み重ねてくださっている多くの先生方に改めて感謝を申し上げます。

本研究会の活動の大きな事業の一つである夏の研究発表会は、その時点での社会情勢を鑑みてオンラインでの開催となりました。熊谷市立妻沼南小学校　小島　千佳先生、松伏町立松伏第二小学校　田村　浩基先生、戸田市立戸田第二小学校　村田　貴彦先生の３名の先生方に実践を発表していただき、それをもとに熱心に協議を行うことができました。また、共栄大学教育学部教授　小川　聖子先生には、具体的で細やかなご指導をいただきました。オンラインでの研究発表会でしたが、参加された皆様は多くのことを学ばれたことと思います。

秋には、第２６回関東地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会埼玉大会プレ発表として熊谷市立新堀小学校で６つの授業を公開していただきました｡学校や地域の実態に即し、様々な工夫がされていた授業をもとに分科会では活発な協議が行われました。全体会では、夏の研究発表会に続き共栄大学教育学部教授　小川　聖子先生から熱のこもった御指導と今後の方向性についてお示しいただき、実りある研究会となりました。この成果を今後の授業実践に生かしてまいりましょう。また、次年度の本発表にも多くの皆様にご参集いただけることを心より願っております。

子供たちが未来社会を主体的に生きるための資質・能力をはぐくむ生活科・総合的な学習の時間の授業実践に向けて、この研究収録を積極的に御活用いただければ幸いです。

結びに、本研究会の諸活動及び研究収録の刊行にあたり、御指導・御協力を賜りました多くの皆様に、心より御礼を申し上げます。

編集委員の構成

編集長	川口市立新郷小学校長	萩　原　美　樹
副編集長	神川町立神泉小学校長	田　島　　司
	滑川町立月の輪小学校長	榎　本　敦　司
	桶川市立桶川西小学校教頭	橋　場　能　成
編集委員	さいたま市立南浦和小学校	小　野　玲　美
	川口市立辻小学校	髙　野　す　み
	鴻巣市立屈巣小学校	岸　本　真　希
	所沢市立北小学校	牧　野　涼　子
	東松山市立新明小学校	塚　本　美　家
	小鹿野町立小鹿野小学校	白　石　博　美
	本庄市立本庄南小学校	三　井　由起子
	深谷市立幡羅小学校	溝　口　萌　菜
	羽生市立川俣小学校	古　島　宏　美
	久喜市立本町小学校	栗　城　　遙
事務局	埼玉大学教育学部附属小学校	横　田　典　久
	埼玉大学教育学部附属小学校	鈴　木　康　平
題　字	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会 元副会長	栗　田　豊　彰
表紙絵	「おどるおどるすず虫ランド」 熊谷市立吉岡小学校	１年　田　中　幸　晟

生活・総合　第３４号
発　行　者　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会
発　行　日　令和６年２月１６日